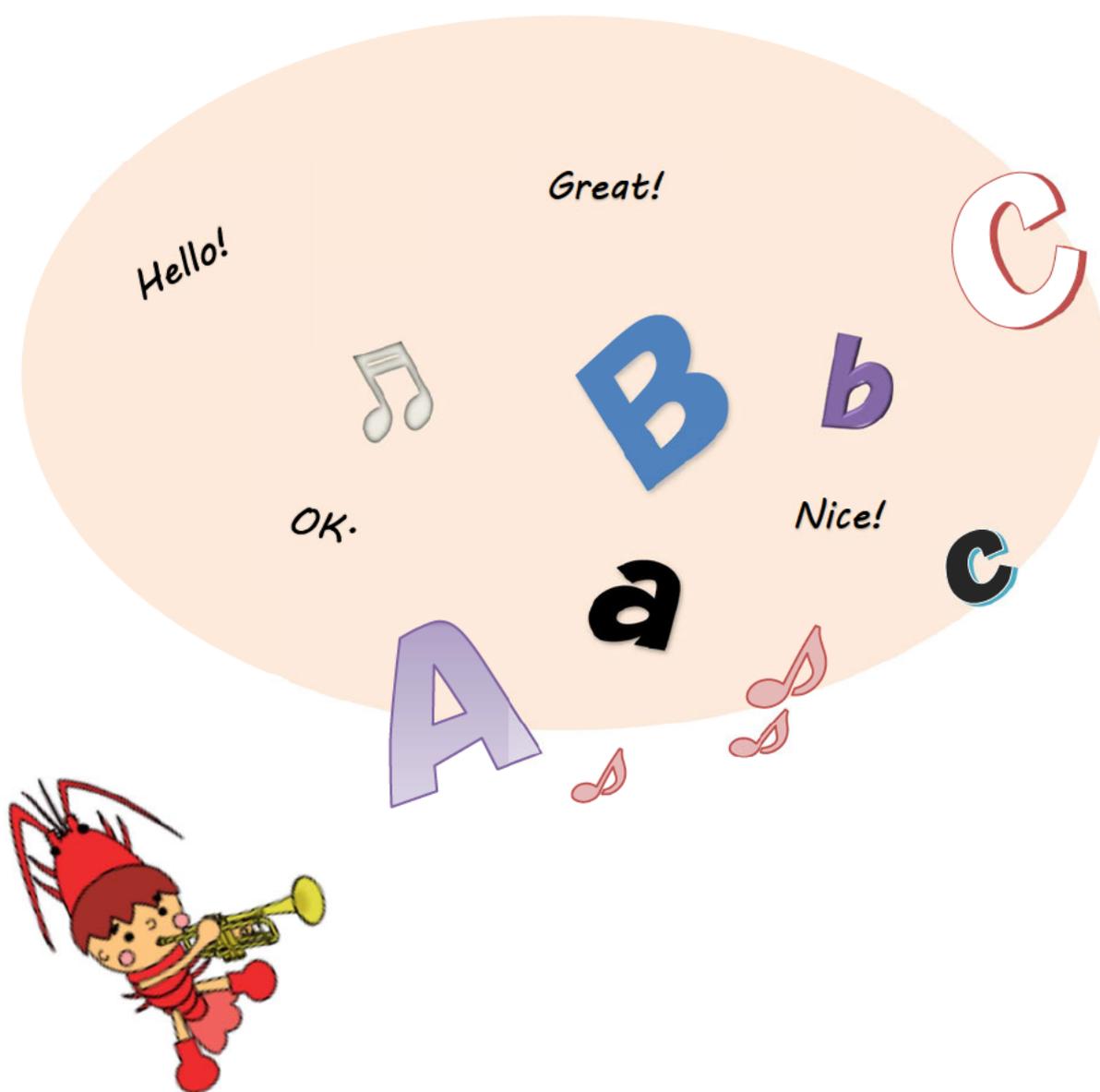


平成30年度

三重の英語教育改革加速事業
モデル校実践事例集



三重県教育委員会
小中学校教育課

はじめに

新学習指導要領において、小学校中学年では、音声に慣れ親しませながら、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成するため、「外国語活動」が導入され、高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞くこと」「話すこと」に加え、積極的に「読むこと」「書くこと」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うため、教科として「外国語科」が導入されました。中学校においては、小学校英語の内容や児童の状況を踏まえた上で、日常的な話題や社会的な話題について、考えや気持ちを伝え合う活動を行うことになり、今後より一層、小中連携を進めることが求められています。

また、小学校におけるこの新しい外国語教育導入について、小学校の先生方からは、外国語活動と教科外国語の違いは何なのか、教科外国語の指導はどのように行えばよいのか、など、不安の声が聞かれました。

このことを踏まえ、今年度「三重の英語教育改革加速事業」にて、中学校区でモデル校を指定し、小学校モデル校において、国から配付された教材を活用し、外国語活動において「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しみ、学習への動機付けを高めた上で、外国語では、段階的に「読むこと」「書くこと」も加え、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を育成することを目的として、小学校における発達段階に応じた英語指導法の研究・開発を行いました。また、小中一貫した学習到達目標を設定する等、小中学校の円滑な接続についても研究を行いました。

本冊子では、前半に、2019年度以降の「小学校英語の課題への取り組み」についての解説を、後半に小学校モデル校公開授業をもとに、指導上のポイント等を明記した実践事例の指導案を掲載しました。

本実践事例集を授業や研修会等で積極的に活用していただき、児童生徒が積極的に英語でコミュニケーションを図る力の育成を一層すすめていただけるよう願っています。

平成31年3月
三重県教育委員会

< 「三重の英語教育改革加速事業 モデル校実践事例集」 目次 >

はじめに

I 2019年度以降の小学校英語の課題への取り組み

はじめに	1
1. 「聞くこと」「話すこと」の言語活動の課題	2
2. 「読むこと」「書くこと」の活動の課題	6
3. 評価（振り返りシート）	7
4. ティーム・ティーチング授業（ALT, HRT の目標・役割・ルール）	8
5. 小中連携、複式学級における指導の課題	9
6. 2019年度以降の小学校英語をつくる：移行期のうちに備えたいこと	10

II 実践事例

・実践事例

① Unit8 This is my favorite place.(Let's Try!2) 【第3・4学年】	11
② Unit3 What do you have on Monday?(We Can!1) 【第5学年】	19
③ Unit5 She can run fast. He can jump high.(We Can!1) 【第5学年】	28
④ Unit4 I like my town.(We Can!2) 【第5・6学年】	37
⑤ Unit4 I like my town.(We Can!2) 【第6学年】	50
⑥ Unit7 My Best Memory (We Can!2) 【第6学年】	62
⑦ H30年度外国語活動年間計画（赤羽小学校 中学年・高学年）	69
⑧ 2018年度 CAN-DO リスト（東橋内中学校区 小学校5年生～中学校3年生）	71

I 関西大学外国語学部 今井裕之教授に御執筆いただきました。

II 県委託事業「三重の英語教育改革加速事業」におけるモデル校が作成した実践事例を掲載しています。

2019年度以降の小学校英語の課題への取り組み 関西大学 今井裕之

はじめに

2020年度から新しい学習指導要領での教育課程がはじまる。5、6年生の「外国語科」では、教科書は紙媒体もデジタル教材も文部科学省検定済教科書に変更され、週2時間の授業を実施し、児童たちの学習成果を行動観察や振り返りシートだけでなく、パフォーマンス評価等も含めて学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）に照らして評価を行うことが求められる。

しかし、2018年度を終えた現在の英語教育実施状況を省みるとき、教育目標、指導内容・方法、評価方法、教材・教具まで、すべてが2020年度以降の環境と大きく異なることは明白である。その前年になる2019年度に私たちは何を軸にどう取り組むのか。移行期の時間数の中で「新学習指導要領の内容・方法レベルに引き上げる」ことも「現行学習指導要領下の外国語活動を続ける」ことも正しくない。今後、移行期・本実施を経て、2023年度末の卒業生まで、児童たちの学習経験（前学年までの学習時間）は年々徐々に増えていくことになる。児童たちの経験と習熟度を踏まえて指導内容も毎年少しずつ（同じ教科書を使って）更新していかななくてはならない。

- (1) 児童の学習経験の差を把握するために、カリキュラムの共有、指導内容、評価記録・結果を学校内で引き継ぐ
- (2) 4月に迎える新学年の児童たちの「できること」「できつつあること」「まだできないこと」を把握する「アセスメント」をおこなう
- (3) それを踏まえて、カリキュラム内容（年間計画、単元計画、教科書内容）の微調整をおこないながら授業を実施する

これらを実現するためには、一人一人の教員が行うことも、学年団が協力することも、学校単位で検討・開発することも必要だが、おそらくそれでは十分ではないだろう。児童に直接指導し、毎日を共に過ごしている先生がたが中核になることは間違いないが、文部科学省の明確な方針提案、教育委員会や各自治体の小学校英語研究部の組織的取り組み、中学校教員や小学校英語教育研究者との継続的な支援や協働があって初めて実現に近づく、全くたやすくはない英語教育改革である（それは中高大にも繋がる課題である）。児童たちの現状を理解しつつ、かつ子供達の可能性も信じつつ、同時に先生がたの健康を大切にしながら、2019年度から5年ほどはきっと続くだろう小学校英語教育の改革の中で、多くの課題解決に取り組み、児童たちだけでなく教師自身の変化や成長も実感し、それを自身のキャリアとして誇れるようになればと願う。

社会文化理論（ヴィゴツキー心理学）に基づく教師の成長研究(Johnson 2014)によれば、人の成長の契機は、教室で起こっている出来事の把握（自分の認知）が想定されたものと異なっていて、感情的な違和(dissonance)を感じる時にあり、その際に同級生や同僚などの対話的

(互恵的) 支援を受けることで、感じていた違和をより深く理解する(対処法を知ることでなく、なぜそれが起こっているのかを理解する)ことができ成長につながると述べている。「新教科」に学校ぐるみで協働的・対話的な研究開発できること、これだけの長期間粘り強く取り組めたこと、その結果、英語授業の内容・方法、児童の振る舞いへの理解が深まったことは、それだけで(他教科の教育力にもつながりうる)大きな成果なのではと思う。以下では、これまでの研究で取り組んできた課題について、順にその経過と成果をまとめてみたい。

1. 「聞くこと」「話すこと」の言語活動の課題

聞くこと、話すことは今後も小学校英語の中核でありつづける。聞くこと、話すことについて、学力の三要素、特に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の観点に基づき目標をたて、評価することが大切である。まず、学力の三要素について、今一度、その理解を深めるために概念整理をしたい。

松下(2016)は、教育改革の取り組みで議論される「資質・能力」についての理論的モデルを提案している。

表1 教育政策における資質・能力の変遷(松下 2016)

名称	学力の3要素	学力の3要素 version2	資質・能力の3つの柱
掲載文書	学校教育法(2007年6月)	中教審「高大接続答申」(2014年12月)	中教審教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」(2016年8月)
適用範囲	小～高	高校・大学入学者選抜・大学	幼・小～高
要素	① 基礎的な知識及び技能	i 主体性・多様性・協働性	① 知識・技能
	② これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力	ii 知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力	② 思考力・判断力・表現力等
	③ 主体的に学習に取り組む態度	iii 知識・技能	④ 学びに向かう力・人間性等

松下が整理したように学力の三要素とのちに呼ばれるものは2007年の学校教育法改訂時以来、概念整理、国際的な学力研究(カリキュラム・リデザイン・センター「四次元の教育 four-dimensional education」)を踏まえての議論などを経て、幼小中高大を貫く資質・能力の枠組みとなった。

この「四次元（知識、スキル、人間性+メタ認知）の教育」の枠組みを見ると、なぜ「人間性」＝思いやりや粘り強さなどが、3要素に組み込まれているのかも理解できる。

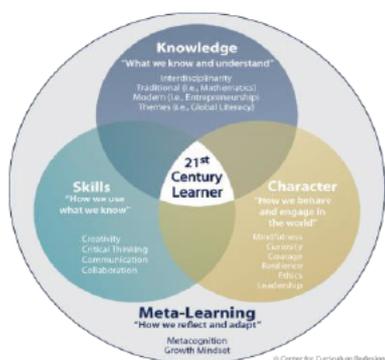


図1 四次元の教育

これらの三要素を踏まえた言語活動（知識技能を踏まえた思考判断表現活動）を行う際には、(1) 言語活動によって獲得させたい能力のイメージ、(2) 言語活動を行う手順、(3) 言語活動デザインのチェックポイントに留意したい。

(1) 能力のイメージ

言語を理解し意味を伝えるためには、言葉の形式（例 Can you play soccer?）とその意味



図2 言語の形式・意味・使用

（サッカーができるかどうか）を理解し発話できること（知識・技能）だけでなく、その言葉が「誰に向けて、どんな目的場面状況で」発話された時に何が伝わるのか（一緒にサッカーしようと誘っている）を経験的に知ることが必要である（思考力、判断力、表現力）。このように、言語活動では、習熟した言語表現を目的場面状況を踏まえて使用する力を学ぶという考えを教員がイメージ、共有することが大切である。

(2) 言語活動の手順

学習指導要領解説には、思考力・判断力・表現力の育成には、以下の4つの手順を踏むことが必要であると述べられている。

- (1) 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する
- (2) 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
- (3) 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
- (4) 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

この手順で学んだことの意味づけを行い、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用することで「思考力、判断力、表現力等」を高めていく。

(3) 言語活動デザインのチェックポイント

言語活動をデザインする際、場面設定が児童同士のやりとりを促進するために効果的であるための要件として、小学校英語の言語材料を使った教室での授業に限定して考えた場合、以下の3点が大切になるだろう。

- (1) ゴール（複数の児童たちが協力して初めて達成できるような目標や課題）
- (2) ロール（目標達成のために、児童たちが果たす・演じる役割を明確に設定）
- (3) ルール（コミュニケーション、会話の流れ、活動の手順などのガイドライン）

この中で特に重要なのは「ロール」で、児童たちが自分の果たすべき・演じるべき役割を理解し合うことがコミュニケーションの土台となる。そして複数の児童たちが、互いの役割を果たしながら協力し合うことで初めて到達できるゴールを設定することで、言語活動はより必然性のあるものとなる。日常生活で起こりうる場面設定を重視しすぎると、その場面で用いる語彙が難しすぎたり、英語を用いる場面が身近な日常とかけ離れてしまったりして危険である。大切なのは互いの役割を果たして初めて成り立つ活動であるかどうかである。ショッピング、レストランの店員とお客という関係などはその典型であるが、日常的ながら英語は普段の生活では使うことがない場面である。先生がたのクラスでは、このような場面設定は、効果的で盛り上がるだろうか。これまで観察した事例から、両方のケースがある。盛り上がらないクラスでは、レストランの会話があまりに典型的すぎ固定されているため、自分が何をどう言おうが、相手の反応は予測ができるため、演じていて臨場感がなく面白くないというケースである。一方、盛り上がるクラスでは、例えばお客が二人ペアで来店し、各々好きなメニューをたくさん注文するので、店員は懸命に暗記して正しい料理を出そうとする。お客役も友達の注文と自分の注文が重ならないように変更したり、逆に重ね合せたりして、レストランのリアリティを楽しんでいた。ほんのすこしの「ロール」の工夫で場面設定は変わるものだと感心した。

言語活動が「この単語を使って発話してみよう」という形式から意味への流れではなく、使用場面や状況を踏まえて、伝えたい意味が生まれて、言葉を探すような言語活動を志向することが、（文法指導を前面に押し出さない）小学校英語教育の強みではないかと思わされる。

ポスタープレゼンテーションで「My Best Memory」の単元をまとめた津市立敬和小学校での研究授業では、プレゼンテーションの後に「（即興で）質疑応答をする」という、中学生でも（大人にも）チャレンジングな「ロール」が児童たちに与えられていた。プレゼンテーションすること自体もハードであるが、ポスターに多くの思い出写真を貼り、聴衆にも発表者にもわかりやすい支援環境を先生がたが整えていたおかげで、児童たちはみながしっかりと伝わるように工夫して発表していた。

「質疑応答」はやはり難関だった。1回目の発表が終わった時に、質疑応答の支援が必要だと判断した先生がたは、児童たちを集め、どんな質問をしたかったかを問いかけ、児童たちから出てきた「二番目の思い出は何か？」という発言を引き出し、「それを英語でどうい

うか」についてグループで考えさせた。そして児童から出てきた「2番目はsecond だからsecond best?」というつぶやきを先生が引きとり、正しい英文に整えて確認したあと、児童たちは2回目のプレゼンテーションに臨んだ。

【事例】運動会（バストメモリー）のプレゼン後のQ&Aで

A: What's your second best memory?

P: Second best memory...school trip.

A: What was fun?

T: What was fun? (ジェスチャーで補う)

P: ... Hotel.

A: Hotel.

T: Why?

P: ... Talking.

A: 聴衆の児童 P: 発表者 T: 指導者

練習した“What's your second best memory?”の質問に端を発しながら、さらに即興的に会話が展開できている様子が観察できた。「ポスタープレゼンテーションでの質疑」という場面状況があって、尋ねたい伝えたい思い（思考判断）があるからこそ、自分の知っている言葉から「ホテルで夜に友達としゃべれたのが楽しかった」という思いをTalkingという一言に託すことができたのだろう。先生がたも、この質問・返答をした児童たちも嬉しかったに違いないだろう。場面状況が意味をうみ、言葉での表現につながる指導場面にはとても強い説得力がある。

(4) 語彙や表現を使うための効果的な場面設定の在り方

そうはいっても2020年以降は、小学校で導入される語彙が600-700語になるため、その指導方針を決めておく必要がある。単語学習とは、私たち教師の過去の学習経験から、単語帳（もう単語学習アプリか）を使って、日本語訳と綴りを暗記することを想像するが、それではない。聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの言語活動を通じた知識・技能の獲得であり、聞き話すことを通して音声と意味が連動し、十分に慣れ親しんだ語彙について、読んだり、書いたりすることを通して文字綴りとの関係づけができるようになるという関係になる。

学習指導要領が思考力・判断力・表現力のポイントにあげる「コミュニケーションの目的、場面、状況」から言語学習を始めることによって、600-700語を使えるようになる指導ができると考えるのは、残念ながら全く現実的ではない。むしろ600-700語の中から、自分の伝えたい言葉を目的や状況に合わせて提示されたリストのなかから選び取る言語活動となるだろう。実際に、多くの大人の英語話者が発話する語彙の数は2000-3000語程度とも言われる。理解できる語彙は膨大であるが、日常生活の表現語彙は多くない。ゴール・ロール・

ルールを踏まえた言語活動を単元のまとめとする授業展開で「言葉を選ぶ語彙力（前述のポスタープレゼンでのTalking）」を言語活動による育成目標にしたい。

2. 「読むこと」「書くこと」の活動の課題

知識・技能 思考・判断・表現

読むこと書くことの指導について、手島(2019)は、以下のようなCAN-DO リストを提示している。

1. 文字の形がわかる
2. 文字の名前がわかる
3. 文字が読める
4. 文字が書ける
5. 語が読める
6. 語が書ける
7. 文が書ける
8. 文章が書ける

各学年で、このリストの何番を重点的に取り組むかについて検討し、年間計画を立てることは重要である。卒業時で、7の「文が書ける」こと（ただし支援・条件として「黒板・プリント等に提示された単語をみて、書き写しながら」できることが付加される）。小学校の英語教育で卒業時に大多数の児童がそのレベルに辿りつけるようになるのは2023年のことである。移行期の現在、大切なのは、上記の1-8までの段階を「ステップ・バイ・ステップ」で進み、決して急かさず、ステップを飛ばさず、児童の成長を粘り強く「待つ」こと、児童の書いた英語を先生が喜んで「読むこと」で児童が書いたことが相手に通じる実感を持たせてやることだと言えないだろうか。

文字を書く技術のような、知識・技能の積み重ねと習熟を要する指導分野については、体系的な段階的指導が必要になる。例えばアルファベットを読む指導でも、アルファベット順を音楽に合わせて最初から最後まで言える（歌える）ことがゴールではなく、まずは英語独自の音の特徴に気づき、その特徴を模倣しようとするのが大切である。以下の文字列を見て欲しい。

- BCDEGPTVZ
- FLMNSX
- AHJK
- QUW
- IY
- O,R

「これら各行に共通する点は何だろう？」と児童たちに問いかけ、様子を見ながら、「発音してごらん」とヒントを出す。やがて、各行の文字の「名前」を発音した時に母音が共通することに（母音という表現はできなくても）気づくだろう。そして児童たちと、その音の共通性を発音しながら実感して楽しみ、さらに、同じ母音に隣接する子音の違い（例えばL, M, Nの子音をあげさに強調して発音すると英語の特徴が誇張されて面白い）を意識して発音して、児童同士で確認させたりする指導も有効であろう。

音声の特徴に加えて、書く時の課題としては、その形を正しく認識し、描く技術の難しさが考えられる。文字の形の類似性（左右対称、上下対称など）、運筆の特徴などへの配慮も大切である。アルファベットは私たちに身近すぎて、書けなかった頃の記憶がもはや薄い私たちは、全く読むことも書くこともできない言語の文字を見て、当時の気持ちを思い出すべきだろう。具体的な書き方の指導方法を考える際には、小学校低学年の児童にひらがなを指導する国語の授業の時と比較しながら指導方法を議論してもよいと思う。「あ」からひらがなを教えないように「A」から書き方を教える必然性はない。具体的なガイドとして、手島良(2019)『これからの英語の文字指導』研究社を参照することをお勧めしたい。

3. 評価（振り返りシート）

振り返りシートは、学力の三要素を評価する上で、非常に重要なツールである。前述のように、言語活動には必ず振り返りが必要であり、四次元教育モデルでも「メタ認知」や省察が明確に位置付けられている。

2019年度の最大の課題は評価方法を2020年の本実施に備えて試行することになると思われるが、聞き取りテスト、スピーキングテストなどのパフォーマンステストを試行したり、ペーパーテストを試してみたりすることも必要かもしれないが、これまで用いてきた「振り返りシート」の改善も同じくらい重要な課題として取り組む必要があるだろう。

振り返りの観点、言語面と活動内容面、自身および他者の学習への取り組みと多岐にわたるため、「気づいたことや、感想を書きましょう」という促しだけでは、児童の自己評価力も高まらないし、教員もそれに基づいて評価できない状態になる。一方で「LとRの違いに気づきましたか？」と具体詳細な指導内容をシートに書いてしまっただけでは「気づき」にならない。

多くの「振り返りシート」が以下の3要素を含んでいる。

- 授業の「めあて」を書く欄
- 3観点について3段階程度で言語活動を評価する枠組み
- 記述式振り返り（難しかったこと、頑張りたいこと、友達のこと、今後頑張りたいことなど）

活動評価が「慣れ親しみ」記述式振り返りが「言語や文化についての気づき」および「関心・意欲・態度」を評価する項目かと思われるが、今後「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」に合わせた回答項目を作る必要がある。「知識・技能」「思考

力・判断力・表現力」については、パフォーマンス・テスト（スピーチや書いた作品などの言語活動の成果の出来栄を評価する）の方がより直接的で正当な評価方法だが、「主体的な態度」については、振り返りカードが有効な手段となる。主体的な態度を含む「学びに向かう力、人間性」は、前述の4次元教育との関係に基づいて言えば、「人間性」と「メタ認知」がひとつにまとめられている。そのため、この「学びに向かう力、人間性」の概念は「思いやり」などの評定を出さない「人間性」の要素部分と、評定評価の対象となる「粘り強さ」「(省察による)自己調整」＝主体的な態度の部分に分かれる。

振り返りシートでの省察の意義は、「授業後の省察（振り返り）を通して、自身が粘り強く活動に取り組めたか、自身の学習方法や言語活動についてよりよい方法を考え工夫したか」を児童から引き出すことにある。これらの省察を促す質問項目の検討と改善を繰り返すことで、「振り返りシート」をより正当な評価手段として、2020年度の教科化以降も存続させたいものである。

4. ティーム・ティーチング授業（ALT, HRT の目標・役割・ルール）

ALTや授業支援者の方々とチーム・ティーチングは、運用の大変さはあるものの、うまく機能した時の学習効果の大きさを考えると、今後もこの指導方法の存続と改善は望ましいものと言える。外国語科に専任教員を配置する動き（＝担任教員が英語授業から外れる）が、これまでも2019年度も自治体によっては加速するところもあるが、言語活動中心の授業展開を前提に考えると、チーム・ティーチングは（だれが行うにしても）望ましい授業形態であろう。

ふたりの教員（もしくはそれ以上）が、授業に臨む前に共有しておくべき情報は、以下の3つである（前述のゴール・ロール・ルールと似ているが、いずれも人の社会的行為・活動を理論化したエンゲストロームの「活動理論」に基づいた授業観察研究の結果である）。

- ツール

教科書、教材、板書、デモンストレーション、日本語での説明など、児童たちと先生たちを仲介・媒介する道具全般

- ルール

先生同士での取り決め「T2, T3は、T1が話している時でも、補足があれば、自分の発言を滑り込ませてもよい」「T1が機材の準備をしている間は、T2, T3は児童の前に立って、授業を進めたり、練習活動等を行う」など、授業のスムーズな運営をルールとして確認する

- ロール

T1, T2, T3各々が、あいさつ、説明、デモ、指示、評価など、児童に働きかける際の役割のうち、特に自分が果たすべき役割について複数決めておく。例えば、T1は指示と説明、T2は評価とデモ、など。ただし、ルールでも述べたが、役割を完全分担するのではなく、互いに補い合うルールのもとで

5. 小中連携、複式学級における指導の課題

短時間学習をカリキュラムに位置づけるかどうかを判断する基準はどこにあるだろうか。時間割上の問題点なのか、教育課程を検討してのことか、単元構成の効率を上げるためか。いずれも必要な要素だけにバランスとりは複雑かもしれない。赤羽小学校の先生がたの実践記録（指導案の記述）を拝見すると、以下のように述べられている。

3・4年生は、年間35単位時間の外国語活動を計画している。授業では言語活動の時間を多く取り入れる内容になるよう授業計画を立てている。また、本校では、全学年で週3回、15分間の外国語活動を朝学習として行っている。今年度は2・4年生の複式学級のため、2・3・4年生の3学年で学習をしている。

短時間学習では、歌や、短い物語を通して、新しい単語や表現をインプットすることを中心としている。また、フォニックスの学習もしている。フォニックスやアルファベットを知ること、身の回りの英語の文字に興味を持ち、自然に英語を読もうとする児童の姿が多く見られるようになった。（赤羽小学校指導案より）

短時間学習の活用方法として、アルファベット指導や歌による語彙、発音への慣れ親しみなど、目的を絞ったこのような活動はとても有効であろう。仮に、短時間学習の形態をとりにくくなったとしても、45分授業に「帯活動＝毎授業で短時間継続的体系的に行う指導」として取り込むことができるので、今後も研究開発が望まれる。

また、複式学級の実践方法についても、赤羽小学校の先生がたの授業記録（指導案）に以下のような記述がある。

Let's Try! 1, 2の中で、同じ表現が出てくる単元を組み合わせながら授業を進めている。4年生は既習の表現が出てきた際には、3年生の見本として活動させるなど、4年生にリードしてもらい機会も多い。ALTには、Small Talkの際に、4年生は3年生より既習表現や語彙が多いことを意識して話してもらいこともお願いしている。

学年や個人の英語学習経験に配慮した指導ができるという点では（先生がたにはご苦勞もあろうかと思いますが）大人数のクラスよりも、言語習得の上で有利であるとも言える。言語活動では、各々が自身の役割を果たす・演じることが、授業参加の積極性につながることから、4年生の児童たちに、活動をリードする役割を担ってもらいことは、とてもよい手段である。今後も継続的に、複式学級のメリットを伸ばす姿勢での開発ができればと願いたい。

6. 2019年度以降の小学校英語をつくる：移行期のうちに備えたいこと

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を育成するには、言語活動中心の授業展開は不可欠であり、言語活動を通して実感したことを、児童自身の振り返りや教師からのフィードバックを通して、意識化、言語化して学びに転化していく過程を単元計画、授業指導案に位置づけることは、今後の小学校英語の成否に関わる重要事項であろう。移行期の中に「言語活動をゴールとする単元づくり」のノウハウが普及すれば、2020年度の本実施で検定教科書にどんな新しい内容が盛り込まれてきても、変化を受け止める土台となるだろう。「教科書が変わっても、授業の基本は変わらない」と言えるまでになれば、2020年のインパクトも少し柔らかくなる。

2020年度から検定教科書を使用した外国語科が始まるが、その後も大きな変化は続く。2020年度以降同じ教材を毎年しばらくは使い続けることになる一方で、児童たちの英語力も、英語学習体験の量・質も、毎年変化していく。それゆえ2020年度以降は、同じ教科書を使用しながらも、児童たちの力量を把握して、毎年のように授業内容や方法を積極的に変更・改善していく必要がある。そのために、指導計画（年間計画、単元計画、授業指導案）を立てるだけでなく、児童たちの活動・評価（スピーチやプレゼンの原稿、ポスターなどの作品、会話や発表の録画など）の記録をデジタルメディアで残すことに、学校ぐるみで取り組んで欲しいと思う。各年度に1度か2度でも良いので、児童たちのパフォーマンスを録画すれば、評価だけでなく、翌年度の計画、児童の活動目標の提示などにも使える重宝なデータとなる。

Teachers are learners of teaching.だと外国語教師教育を实践研究する Johnson (2009) は述べている。また別の学者は、授業研究は「問題解決、PDCA」ではなく、教室での Quality of Life をより高めるために、児童や自分たちの関係や環境をより深く理解すること (Understanding) だと主張する (Hanks 2017 ほか)。各小中学校の先生がた、教育委員会の方々が、互いに多様な経験や視点を持って、不断の協働を主体的に続けていच्छること、その場に関わらせていただいたことに心より感謝したい。ありがとうございました。

参考文献

- 松下佳代 (2016). 「資質・能力の新たな枠組み—「3・3・1 モデル」の提案—」『京都大学高等教育研究』第 22 号
- 手島 良 (2019). 『これからの英語の文字指導：書きやすく、読みやすく』研究社
- Johnson, K. (2009). *Second Language Teacher Education: A Sociocultural Perspective*. Routledge
- Hanks, J. (2017). *Exploratory Practice in Language Teaching: Puzzling about Principles and Practices*

第3・4学年 小学校外国語活動指導案

紀北町立赤羽小学校

1. 単元名 Unit 8 This is my favorite place. (Let's Try ! 2 文部科学省)

2. 単元目標

- ・教科名や教室名の言い方に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- ・自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について伝え合ったりする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

3. 言語材料 (下線は新出表現、波下線は4年生は既習、3年生は未習)

- Go straight. Turn [right / left] . Stop. This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like (music).
- favorite, place, my, our, go, why, straight
- 学校・教室等 classroom, restroom, [science / music / arts and crafts / computer /cooking] room, [school nurse's / school principal's / teachers'] office, entrance, library, gym, playground
(既習) 挨拶、曜日、スポーツ、This is for you. Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue). turn, right, left, lunch, school

4. 関連する新学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと (発表)	イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

5. 高学年外国語との関連

- We Can ! 1 Unit 3 What do you have on Monday? (学校生活・教科名)
Unit 7 Where is the treasure? (Go straight. Turn right.)
We Can ! 2 Unit 1 This is ME !

6. 単元について

本単元「This is my favorite place.」は、校内の好きな場所に案内したり、紹介したりする内容になっている。実際に相手に道案内をする活動では、行動を伴うため、児童には語彙や表現の意味が理解しやすいように思われる。実生活で道案内が行われる場合は、案内する側は、相手に正確に伝えることを意識し、相手の理解を確認しながら、また、案内される側は、自身の理解を確かめたり、自身が理解していることを相手に示したりしながら、コミュニケーションを図る。本単元の道案内の場面でも、相手と目的を十分意識して道案内に取り組ませたい。

教室内で実際の道案内を想定するのは難しいことから、本単元では、自身が気に入っている校内の場所へ案内する活動を設定する。気に入った場所を、理由とともに紹介し合うことで、自分たちの学校のよさを再確認する機会にもしたい。

7. 複式学級における外国語活動の指導について

複式学級のため、Let's Try! 1, 2の中で、同じ表現が出てくる単元を組み合わせながら年間計画を作成し、授業を行う。3年生は未習、4年生は既習の表現が出てきた際には、4年生を3年生の見本として活動させるなど、4年生がリードした活動を設定することにより、上学年が自信を持てるよう工夫する。また、Activity等では、4年生は3年生より既習表現や語彙が多いことを意識し、学年に応じて扱う表現や語彙を少し変えたやり取りを設定する。

8. 単元計画（4時間）

時	目標（◆）と主な活動（【 】, ○） 【 】=誌面化されている活動	◎評価の観点<方法>
1	◆いろいろな教科や教室の言い方に慣れ親しむ。 ○あいさつ How are you? ○歌 [The Days of the Week] SWITCH ON! 1 【Let's Chant】School Chant p32 ○教室・教科クイズをする。 ○ポインティング・ゲームをする。 【Let's Listen 1】 p30 ○お気に入りの場所について交流する。	◎いろいろな教室や教科について、聞いたり言ったりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)
2	◆いろいろな教室の言い方や、道案内の仕方に慣れ親しむ。 ○あいさつ How are you? ○歌 [The Days of the Week] SWITCH ON! 1 【Let's Chant】School Chant p32 【Let's Watch and Think 1】 p31 ○どんジャンゲームをする。 ○道案内のときに使う表現を知り、実際に動いたり言ったりする。	◎いろいろな教室や道案内の仕方について、聞いたり言ったりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)
3	◆お気に入りの場所について話したり、道案内の仕方に慣れ親しんだりする。 ○あいさつ How are you? ○歌 [Mother Gooney Bird] SWITCH ON! 1 【Let's Chant】School Chant p32 【Let's Listen 2】 p32 ○どんジャンゲームをする。 ○道案内ゲームをする。	◎お気に入りの場所について話したり、道案内を聞いたりしたりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)
4 (本時)	◆道案内ゲームを通して、自分のお気に入りの場所に案内したり、そのわけを伝え合ったりする。 ○あいさつ How are you? ○歌 [Mother Gooney Bird] SWITCH ON! 1 【Let's Chant】School Chant p32 【Let's Play 1】ポインティング・ゲームをする。 p30・31 ○道案内ゲームをする。	◎道案内ゲームを通して、自分のお気に入りの場所に案内したり、そのわけを伝え合ったりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)

9. 本時について

(1) 本時の目標

自分が気に入っている場所に案内したり、そのわけについて伝え合ったりする。

(2) 本時の指導計画 (45分)

児童の学習活動	指導者の活動と留意点	
	HRT	JTE
<p>1. Greetings</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めの挨拶をする。 <p>Please stand up. Let's start. Please sit down. ALT、HRT と挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと挨拶をする。 <div data-bbox="1043 577 1390 902" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>少人数の中でも、たくさんやり取りが行えるよう ALT が児童一人ひとりに “How are you?” と問いかけ、児童も一人ひとり答えていく。ALT からの問いかけが終わったら、児童全員で ALT と HRT に “How are you?” と問いかける。</p> </div>
<p>2. Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌を歌う。 <p>○ 【Mother Gooney Bird】 SWITCH ON! 1</p> <p>○ 【School Chant】 チャンツ p.32</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと歌を歌う。 <p>Let's sing a song.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと歌を歌う。 <div data-bbox="774 1104 1370 1218" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>歌い終わったあとに、どんな教室が出てきたか、確かめたり、“Do you like~?” など、子どもたちとやり取りをしたりする。</p> </div>
<p>3. Activity 1</p> <ul style="list-style-type: none"> JTE の提示するカードを見ながら、教室の単語を一緒に発音する。 ポインティング・ゲームをする。 教科書を開く。 	<p>Let's play a pointing game. Please open the textbook to pages 30 and 31.</p>	<ul style="list-style-type: none"> カードを提示しながら、教室の単語を一緒に発音する。 教室の単語を発音する。 <div data-bbox="1182 1417 1479 1532" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3年生の様子を見ながら、適宜繰り返して発音する。</p> </div>
<p>4. Today' Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを確認する。 	<div data-bbox="403 1619 1307 1688" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>道案内ゲームを通して、自分の好きな教室を友だちに紹介しよう。</p> </div>	
<p>5. Activity 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 道案内のときに使う英語の表現を確かめる。 道案内のゲームのデモンストレーションを見てやり方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと一緒に発音する。 道案内ゲームのデモンストレーションをする。 	<p>Go straight. Turn [right / left] . Stop.</p> <ul style="list-style-type: none"> 道案内ゲームのデモンストレーションをする。
<div data-bbox="429 2036 1002 2114" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童の理解を助けるため、ジェスチャー等を交えて行う。</p> </div>		

<ul style="list-style-type: none"> • 自分のお気に入りの場所を決め、ワークシートに記入する。 • 椅子を教室に見立て、活動する。一人案内役を決め、友だちに自分の好きな教室を案内する。その後、好きな理由を発表する。先に4年生から案内役をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを配付する。 • 各教室のカードを椅子の上に置く。 	<p>椅子を各教室に見立て、案内役の好きな教室はどこか考えながら、道案内に合わせて実際に活動する。</p> <p>案内される児童だけでなく、案内する児童、見ている児童、全員が体の向きを変えたり、方向を確かめたりしながら活動する。</p>
<p>Student 1 : Go straight. Turn left/right. Stop. Student 2 : This is (the music room). Student 1 : Yes. I like (the music room). Student 2 : Why? Student 1 : I like (music). (The music room) is my favorite place. Student 2 : (reaction)</p>		<p>好きな場所だけでなく、“I like～.”と、理由も伝え合う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 発表後は、ワークシートに記入する。 • 友達が、どこの教室がお気に入りだったのか、確かめる。 	<p>道案内ゲームを通して、自分のお気に入りの場所に案内したり、そのわけを伝え合ったりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 机間指導をする。 	<p>“Me too.” “Good.” などのリアクションをし、友だちの好きな場所、その理由について自分がどう感じたか伝え合う。</p> <p>友達が、どの教室がお気に入りかで、その理由が何だったのか、発表し、全員で共有する。</p>
<p>6. Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本時の活動について振り返る。 • 振り返りカードに本時の振り返りを記入する。 <p>7. Closing</p> <p>Please stand up. Let's finish. Good bye. See you next time.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 振り返り用紙を配付する。 • 子どもたちと一緒にあいさつをする。 	<p>Good bye. See you next time.</p>

ワークシート

This is my favorite place.

Name _____

☆学校の中の好きな場所と、そのわけを書こう。

Name	Place	Reason(わけ)

1. 単元名 Unit 8 This is my favorite place. (Let's Try ! 2 文部科学省)

9. 本時について

(1) 本時の目標

自分が気に入っている場所に案内したり、そのわけについて伝え合ったりする。

(2) 本時の指導計画 (45分)

児童の学習活動	指導者の活動と留意点					
	HRT	JTE				
<p>1. Greetings</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めの挨拶をする。 <p>Please stand up. Let's start. Please sit down. ALT、HRT と挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと挨拶をする。 				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">ALT : Hello.</td> <td style="width: 50%;">Students : Hello.</td> </tr> <tr> <td>ALT : How are you?</td> <td>Students : I'm ____.</td> </tr> </table>			ALT : Hello.	Students : Hello.	ALT : How are you?	Students : I'm ____.
ALT : Hello.	Students : Hello.					
ALT : How are you?	Students : I'm ____.					
<p>2. Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌を歌う。 <p>○【Mother Gooney Bird】 SWITCH ON ! 1</p> <p>○【School Chant】 チャンツ p32</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと歌を歌う。 <p>Let's sing a song.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと歌を歌う。 				
<p>3. Activity 1</p> <ul style="list-style-type: none"> JTE の提示するカードを見ながら、教室の単語を一緒に発音する。 ポインティング・ゲームをする。 教科書を開く。 	<p>Let's play a pointing game. Please open the textbook to pages 30 and 31.</p>	<ul style="list-style-type: none"> カードを提示しながら、教室の単語を一緒に発音する。 教室の単語を発音する。 				
<p>4. Today's Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを確認する。 	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>道案内ゲームを通して、自分の好きな教室を友だちに紹介しよう。</td> </tr> </table>		道案内ゲームを通して、自分の好きな教室を友だちに紹介しよう。			
道案内ゲームを通して、自分の好きな教室を友だちに紹介しよう。						
<p>5. Activity 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 道案内のときに使う英語の表現を確かめる。 道案内のゲームのデモン 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと一緒に発音する。 道案内ゲームのデモン 	<p>Go straight. Turn [right / left] . Stop.</p>				

<p>ストレーションを見てやり方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分のお気に入りの場所を決め、ワークシートに記入する。 • 椅子を教室に見立て、活動する。一人案内役を決め、友だちに自分の好きな教室を案内する。その後、好きな理由を発表する。先に4年生から案内役をさせる。 	<p>トレーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを配付する。 • 各教室のカードを椅子の上に置く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 道案内ゲームのデモンストレーションをする。
<p>Student 1 : Go straight. Turn left / right. Stop. Student 2 : This is (the music room). Student 1 : Yes. I like (the music room). Student 2 : Why? Student 1 : I like (music). (The music room) is my favorite place. Student 2 : (reaction)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> • 発表後は、ワークシートに記入する。 • 友達が、どこの教室がお気に入りだったのか、確かめる。 <p>6. Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本時の活動について振り返る。 • 振り返りカードに本時の振り返りを記入する。 <p>7. Closing</p> <p>Please stand up. Let's finish. Good bye. See you next time.</p>	<p>評道案内ゲームを通して、自分のお気に入りの場所に案内したり、そのわけを伝え合ったりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 机間指導をする。 • 振り返り用紙を配付する。 • 子どもたちと一緒にあいさつをする。 	<p>Good bye. See you next time.</p>

外国語活動ふり返りカード(3,4年)

Let's Try! Unit 年 名前

	外国語活動のふり返り	今日の感想
月 日	①積極的に英語を声に出していってみようとする。 () ②相手の目を見て言葉のやりとりをする。 () ③相手の話をしっかりと聞く。 () ④相手にとどく声で話す。 () ⑤笑顔で活動をする。 ()	
月 日	①積極的に英語を声に出していってみようとする。 () ②相手の目を見て言葉のやりとりをする。 () ③相手の話をしっかりと聞く。 () ④相手にとどく声で話す。 () ⑤笑顔で活動をする。 ()	
月 日	①積極的に英語を声に出していってみようとする。 () ②相手の目を見て言葉のやりとりをする。 () ③相手の話をしっかりと聞く。 () ④相手にとどく声で話す。 () ⑤笑顔で活動をする。 ()	
月 日	①積極的に英語を声に出していってみようとする。 () ②相手の目を見て言葉のやりとりをする。 () ③相手の話をしっかりと聞く。 () ④相手にとどく声で話す。 () ⑤笑顔で活動をする。 ()	

1. 単元名 Unit3 What do you have on Monday? (We Can!1 文部科学省)

2. 単元の目標

- ・教科について聞いたり言ったりしようとする。また、活字体の小文字を認識し、読もうとする。(外国語への慣れ親しみ)
- ・世界の学校生活に関するまとまりのある話を聞いて、おおよその内容を捉え、日本の学校生活との違いに気づく。(言語や文化に対する気付き)
- ・他者に配慮しながら、時間割やそれについての自分の考えなどを伝え合おうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

3. 言語材料

- ・ Do you have (P.E) on (Monday)? Yes, I do. / No, I don't.
- ・ What do you have on (Monday)? I study (math). I want to be (a teacher).
I want to study (math).
- ・ 教科 (Japanese, English, math, social studies, home economics, calligraphy, moral education, P.E)
- ・ 教科外活動 cleaning time, recess
- ・ 職業 (baseball player, doctor, fire fighter, florist, police officer, vet) study, goat
- ・ [既出表現] 曜日, 教科 (music, arts and crafts, science, teacher, soccer)

4. 中学校外国語科との関連

1年 One World Lesson3 メイの好きなもの 一般動詞 (like, have, want)

2年 One World Lesson5 Halloween Party

不定詞の名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法

5. 単元について

これまでの学習で世界の文化や言語等に触れてきた児童にとって、一番身近な学校生活について、他の国々ではどのようにしているのだろうかという興味・関心がわくのは、自然なことである。そこで、本単元では、学校生活を題材に学習を進め、世界の子ども達がどのような学校生活を送っているのか、どのような科目を学習しているのかなどを知り、児童の視野を広げたい。そして、学習していることや経験したとことが将来の自分の進路を決める際に影響があることを実感するために、ある職業に就くためにはどのようなことを学習すればよいかという視点から、オリジナル時間割を作成し、インタビュー形式で紹介し合う。また、自分の将来につながる時間割や興味関心に沿う自分たちの夢の時間割を考えて発表する。

児童はこれまで4年生の外国語活動では、月1回程度総合的な学習の時間内で曜日の言い方や簡単な教科名については慣れ親しんできた。また、**have**についても、実際には何かを持っている（物的所有・所持）場合に限定して、**Do you have ~?**の表現を扱っている。本単元では、具体物や実際に何かを（手に）持つわけではない**have**について学習する。これまでに慣れ親しんできたものとは違う用法に出会うことで、児童が混乱しないよう配慮が必要である。新出の教科名も、8つ学習する。

文字については**Let's Try!2 Unit6, Hi friends!1 Unit6**での大文字の知識に加えて、大文字と小文字のマッチングなどをし、児童が楽しみながら読み書きを進めていけるようにしている。

6. 指導について

本単元の指導にあたっては、教科を尋ねたり答えたりする英語表現を使って、夢の時間割づくりをさせる。児童相互のコミュニケーションを図るために、つくった時間割をインタビュー形式で交流し、紹介したりすることができるようにしたい。

そのために、第1、2時では、日本語や日本文化を学ぶ外国の学校や、児童の数が多教室の様子など、自分たちとは違う外国の学校生活に興味をもち、教科の言い方や、何曜日にどんな教科があるのかを伝える表現に出会わせたい。本単元では、時間割が題材になるという見通しをもたせ、外国の学校生活の様子にも興味を持たせたい。

第3、4時では、時間割を尋ねたり答えたりする表現を言ったり聞いたりして、英語での言い方に慣れることをねらいとしている。デジタル教材の視聴や、**Chant**やゲーム等の活動を通して何曜日にどんな教科があるのかを尋ねたり答えたりする表現を知る。さらに、まとまりのある話を聞いて理解する活動や、ペアで時間割について情報交換するなど、さまざまな活動を通して児童が十分にインプットとアウトプットを繰り返し、時間割について尋ねたり答えたりする表現を使えるようにさせたい。また、好きな教科名を尋ねたり答えたりするインタビューを行い、自分の好きな教科について友だちと会話することができるようにする。

第5時では、班でオリジナルの時間割を作って紹介することをねらいとしている。今までの活動で十分表現に慣れ親しんだうえで、班で職業を選び、その職業に就くためのオリジナル時間割を作成する。時間割だけでなく、オリジナル教科も含めて作成する。これまでに聞いたり話したりしたことを生かして、オリジナル時間割やオリジナル教科について尋ねたり答えたりすることで、伝えたい、聞きたいという思いも高まると考える。

第6時では、夢の時間割をつくって紹介することをねらいとしている。自分なら、どんな時間割だと夢のようかを考え、指導者や友だちの夢の時間割についても尋ねたり答えたりする。その際、前時で行ったことを意識し、自分の将来の夢やなりたい職業がある児童にはその職業につながる時間割をつくれるよう声をかけていく。また、選んだ理由や、どんな内容を学習するのか一步踏み込んだ内容まで考えさせたい。

7. 単元計画 (全6時間)

次	時間	授業時間	主な活動 (【】、○) 【】 = 紙面化されている活動
1	1	45分 授業	【Let's Watch and Think 1】 p18,19 世界の子供たちがどのような科目を学習しているかを知り、自分たちの学習との相違点や共通点に気付く。 時間割の言い方を知る。(反復練習) 【Let's Sing】 p20 Sunday, Monday, Tuesday 【Let's Listen】 p20 どの曜日の時間割かを聞いて () に番号を書く。
2	2-1	短時間 学習	○ポインティング・ゲーム、キーワード・ゲーム (教科名) 【Let's Sing】 p20 Sunday, Monday, Tuesday
	2-2	短時間 学習	○ラッキー・カード・ゲーム (教科名) 【Let's Sing】 p20 Sunday, Monday, Tuesday 【Jingle】 p22 Alphabet Jingle
	3	45分 授業	Small Talk : 好きな教科① 【Let's Chant】 p22 What do you have on Monday? 【Let's Watch and Think】 p21 映像を見て、世界の子供も達がどんな時間割で学んでいるか、分かったことを誌面に記入する。 【Let's Play】 p20 一週間の時間割の中から好きな曜日を一つ決め、“Do you have ~ ?” と尋ね、相手がどの時間割を選んだかを当てる。
	2-3	短時間 学習	○ミッシング・ゲーム (教科名) 【Let's Sing】 p20 Sunday, Monday, Tuesday
3	4-1	短時間 学習	○おはじきゲーム (職業名)
	4-2	短時間 学習	○3ヒント・クイズ (職業名)
	5	45分 授業	【Jingle】 p22 Alphabet Jingle ○オリジナル時間割 ・班である職業を選択し、その職業に就くための時間割を考え、教科絵カードを使ってオリジナル時間割を作成する。 ・作成したオリジナル時間割を他の班の人に紹介する。
	4-3	短時間 学習	【Let's Watch and Think 3】 p23 ・子どもたちの将来の夢について知る。
4	6 本時	45分 授業	Small Talk : 好きな教科② 【Activity1】 p22 指導者の夢の時間割について聞く。 自分の夢の時間割を作成し、ペアと紹介し合う。 What do you have on Tuesday? ➡ I have two P.E. classes, English, music and a long lunchtime.

8. 本時について (6/6時)

(1) 本時の目標

- ・夢の時間割を考え、友だちと伝えあう。

(2) 本時の指導過程 (45分)

時間	児童の活動	指導者の活動と留意点・ 評 評価<方法>	
		HRT	ALT
2分 5分	1. Greeting ・挨拶をする。 2. Small Talk ・ALT の話を聞く ・ALT と児童のやり取りを聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に挨拶する。 ・個別に数名の児童に挨拶する。 ・未習単語が含まれているが、絵カードを提示し、大まかな内容が捉えられるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に挨拶を行う。 ・アメリカのクリスマスについて話をする。 ・児童に質問を投げかけ、やり取りをする。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【Small Talk】 ALT: Christmas is coming. When is Christmas Day? S : December! ALT: Yes! It's December 25th. It's Tuesday. I'll tell you about Christmas in America. In America, I don't have Christmas cake. (クリスマス I usually eat pie and turkey. (パイ、七面鳥の写真) I have a big Christmas tree and many presents under the tree. (ツリーの写真) I can get many presents and cards from my family or friends. (カードの写真) What present do you want for Christmas</p> </div>	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童が興味をもてるよう季節に応じた話題を取り入れ、本時で扱う既習語彙“have can like”を扱った内容とする。 ※クリスマスについては宗教的行事となるため、配慮が必要。</p> </div>
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HRT は ALT の話を児童と一緒に聞く。児童の様子を見て、理解ができていないと感じた場合は補足、支援を行う。</p> </div>
1分	3. めあてを知る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>夢の時間割を作って友だちと伝え合おう。</p> </div>	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>リピートではなく、イラストを見せて英語を言わせる。テンポよく行う。</p> </div>
3分	4. Warming up 英単語の発音練習を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・テンポよく楽しい雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科に関わる英単語を正しい発音で練習する。
3分	5. ALT と HRT によるデモンストレーションを見る What do you have on ~? - I have ~.	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT とデモンストレーションで進め方を示す。 ・教科の絵カードを黒板に貼り、視覚支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRT とデモンストレーションで進め方を示す。 ・HRT の夢の時間割について、あいさつやリアクションを入れながら流れを示す。

		<p>ALT : Hello. What do you have on Tuesday? HRT : I have P.E, PE, math, and music. ALT : Oh! Double P.E. And math and music!! Why? HRT : Because I can swim well and I like singing very much*. <small>*単元の組替を行い、Unit5 は学習済みのため既習表現</small> ALT : That's nice! OK! Thank you! Bye. HRT : This is my “夢の時間割”. Let's make your “夢の時間割”.</p>	
10分	6. 夢の時間割を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに科目カードを張り付けるよう指示する。 机間指導を行い、会話練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、“Why?” や “Do you like~?” を使って質問する。
	<p>前時に行った職業に合わせた時間割づくりを振り返り、将来の夢や憧れの職業等を思い浮かべた時間割を作成するように助言する。</p>		<p>What do you have on Wednesday? -I have ○○. Why? -Because~ の表現をおさえる。</p>
3分	7. デモンストレーションに参加する	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアを募り、自分の時間割を使ってデモンストレーションをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童とデモンストレーションを行う。 リアクション、ジェスチャーを意識する。
5分	8. 【Activity 1】 夢の時間割を質問したり答えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が作った夢の時間割を紹介させる。 リアクションやジェスチャーを行って会話しているか。 困っている児童の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒に活動を行う。
		<p>評 時間割について尋ねたり、答えたりしているか。 <行動観察></p>	<p>ALT は児童と一緒に活動に参加する。その際、プラスアルファの質問やリアクションを意識して行う。</p>
5分	9. 【Sharing Time】 言えなかった言葉や表現を交流し、全体で解決策を考える。	<ul style="list-style-type: none"> どこで、どんなことを困ったのか、尋ねる。 上手にできていたペアや困っていたペアを紹介する。 Why? -Because,I(play,want,can)~を付け足すよう提案する。 	
	10. 【Activity2】		<p>Sharing Time の後、少しレベルアップできるような視点を考え、提案する。</p>

3分	シェアリングタイムで出したことを実践し、夢の時間割を質問したり答えたりする。	・理由や感想も含めて伝えるように促す。 評時間割について尋ねたり、答えたりしているか。<行動観察>	・児童と一緒に活動を行う。
5分	11. 【Looking back】 ふりかえりを記入する	・本時のねらいに照らして児童を認める。	・児童の良かったところを褒める。
	12. 【Closing】 ・挨拶をする	・一緒に挨拶をする	・一緒に挨拶をする

最後にまとめとして、全体に戻す。ALTからのコメントをもらおうとよい。
または、上手にできていたペアを紹介する。

(3) 板書計画

日にち	Today's Goal	夢の時間割を作って友だちと伝え合おう。			
曜日		HRTの夢の時間割		ALTの夢の時間割	
天気	体感	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Greeting		教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Small Talk		教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Warming up		教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Practice		教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Activity①		教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Sharing time		教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Activity②		教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト	教科 イラスト
Looking back		教科 イラスト			
Closing		教科 イラスト			

第5学年 外国語活動 学習指導案

亀山市立野登小学校

1. 単元名 Unit3 What do you have on Monday? (We Can!1 文部科学省)

8. 本時について (6/6時)

(1) 本時の目標

- ・夢の時間割を考え、友だちと伝えあう。

(2) 本時の指導過程 (45分)

時間	児童の活動	指導者の活動と留意点・ <u>評</u> 評価<方法>	
		HRT	ALT
2分	1. Greeting ・挨拶をする。	・全体に挨拶する。 ・個別に数名の児童に挨拶する。	・児童と一緒に挨拶を行う。
5分	2. Small Talk ・ALT の話を聞く ・ALT と児童のやり取りを聞く	・未習単語が含まれているが、絵カードを提示し、大まかな内容が捉えられるよう支援する。	・アメリカのクリスマスについて話をする。 ・児童に質問を投げかけ、やり取りをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【Small Talk】</p> <p>ALT: Christmas is coming. When is Christmas Day?</p> <p>S: December!</p> <p>ALT: Yes! It's December 25th. It's Tuesday.</p> <p style="padding-left: 20px;">I'll tell you about Christmas in America.</p> <p style="padding-left: 20px;">In America, I don't have Christmas cake. (クリスマスケーキの写真)</p> <p style="padding-left: 20px;">I usually eat pie and turkey. (パイ、七面鳥の写真)</p> <p style="padding-left: 20px;">I have a big Christmas tree and many presents under the tree.</p> <p style="padding-left: 20px;">(ツリーの写真)</p> <p style="padding-left: 20px;">I can get many presents and cards from my family or friends.</p> <p style="padding-left: 20px;">(カードの写真)</p> <p style="padding-left: 20px;">What present do you want for Christmas?</p> </div>			
1分	3. めあてを知る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 夢の時間割を作って友だちと伝え合おう。 </div>	
3分	4. Warming up 英単語の発音練習を行う	・テンポよく楽しい雰囲気を作る。	・教科に関わる英単語を正しい発音で練習する。

3分	<p>5. ALT と HRT によるデモンストレーションを見る</p> <p>What do you have on ~?</p> <p>- I have ~.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ALT とデモンストレーションで進め方を示す。 • 教科の絵カードを黒板に貼り、視覚支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • HRT とデモンストレーションで進め方を示す。 • HRT の夢の時間割について、あいさつやリアクションを入れながら流れを示す。
<p>ALT : Hello. What do you have on Tuesday?</p> <p>HRT : I have P.E, PE, math, and music.</p> <p>ALT : Oh! Double P.E. And math and music!! Why?</p> <p>HRT : Because I can swim well and I like singing very much*.</p> <p style="font-size: small;">*単元の組替を行い、Unit5 は学習済みのため既習表現</p> <p>ALT : That's nice! OK! Thank you! Bye.</p> <p>HRT : This is my “夢の時間割”. Let's make your “夢の時間割”.</p>			
10分	6. 夢の時間割を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートに科目カードを張り付けるよう指示する。 • 机間指導を行い、会話練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 机間指導を行い、“Why?” や “Do you like~?” を使って質問する。
3分	7. デモンストレーションに参加する	<ul style="list-style-type: none"> • ボランティアを募り、自分の時間割を使ってデモンストレーションをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童とデモンストレーションを行う。 • リアクション、ジェスチャーを意識する。
5分	8. 【Activity 1】 夢の時間割を質問したり答えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> • 児童が作った夢の時間割を紹介させる。 • リアクションやジェスチャーを行って会話しているか。 • 困っている児童の支援をする。 <p>評時間割について尋ねたり、答えたりしているか。<行動観察></p>	<ul style="list-style-type: none"> • 児童と一緒に活動を行う。

5分	<p>9. 【Sharing Time】 言えなかった言葉や表現を交流し、全体で解決策を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこで、どんなことを困ったのか、尋ねる。 ・上手にできていたペアや困っていたペアを紹介する。 ・Why? -Because,I(play,want,can)~を付け足すよう提案する。 	
3分	<p>10. 【Activity2】 シェアリングタイムで出たことを実践し、夢の時間割を質問したり答えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理由や感想も含めて伝えるように促す。 <p>評時間割について尋ねたり、答えたりしているか。<行動観察></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に活動を行う。
5分	<p>11. 【Looking back】 ふりかえりを記入する</p> <p>12. 【Closing】 ・挨拶をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいに照らして児童を認める。 ・一緒に挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の良かったところを褒める。 ・一緒に挨拶をする

第5学年 外国語活動 学習指導案

亀山市立川崎小学校

1. 単元名 Unit5 She can run fast. He can jump high. (We Can! 1 文部科学省)

2. 単元目標

- ・自分や相手について、できることやできないことを聞いたり、言ったりする。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・文字には音があることに気づく。
(言語や文化に対する気付き)
- ・他者に配慮しながら、自分や身近な人についてできることやできないことなどを紹介しようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

3. 言語材料

- ・ Can you (sing well)? Yes, I can. /No, I can't. [I / You / He / She] [can / can't] (sing well).
- ・ 動作 : play [the recorder / the piano], ride a [bicycle / unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well
- ・ その他 : can, can't, he, she, Mr., Ms., net, omelet
- ・ [既出表現] スポーツ、動作、日課、not

4. 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと (発表)	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

5. 中学校外国語科との関連

- 1年 One World Lesson 4 キング先生の家族 三人称 (He, She)
- 1年 One World Lesson 7 マンガ大好き 助動詞 (can, can't)

6. 単元について

本単元では、三人称 (He / She) を使った表現や、できることやできないこと (can/can't) の表現に初めて出会う。これまでの外国語活動の学習では、一人称や二人称を使って考えを伝え合ってきた。三人称を学習することにより、その場にはいない人物のことも話することができるようになり、相手に伝える内容を大きく広げることにつながる。三人称単数形の動詞変化を本単元で扱うことは、小学生には負荷が大きい。そこで、本単元では **can** とともに扱うことで動詞変化を回避している。児童が **can** を使ってできることを紹介し合ったり、相手ができることを認め合ったりする活動は、他者への配慮が必要であり、学級が学習集団へと高まることが期待される。

また、この単元では、文字には名称のほかに音があることに気付かせ、それに慣れ親しむこともねらいとしている。それぞれの文字で始まる単語の初頭音に意識を向けさせ、文字の音への気付きを促すことで、単語を類推して読む力につなげたい。

7. 指導について

外国語活動は、45分の授業週1回と朝15分の短時間学習を週に3回行い、年間70時間の授業を行っている。45分の授業では、Greeting、Warming up、Practice、Activity、Looking back、Closingの活動を基本とし、特にActivityを中心に授業を組み立てている。また、授業の流れを掲示し、児童に活動の見通しをもたせている。短時間学習では、学習している単元に関連する英単語の発音、Let's Chant や Let's Playなどを週3回取り組んでいる。教室にクラスルームイングリッシュや既習語彙を掲示し語彙を増やす工夫もしている。

本單元では、動物たちが速さなどを競い合っている様子を見ることや世界で活躍するスポーツ選手、研究者についての話を聞くことを通して「できる」「できない」の表現に出会う。次に、できること、できないことについて話しているのを聞き、その内容を別の子どもが紹介する場面から三人称の表現を知る。

本時の学習では先生を紹介することを通して、三人称 (He / She) や can などの表現方法に親しむことをねらいとしている。Small Talk では、HRT や ALT のできることやできないことなどを話す。その中で HRT や ALT と児童が受け答えする場面を設け、本時の見通しをもたせる。児童が教師にインタビューする活動では、身近な人を知る楽しさを実感させるため、児童の質問に答える教師が Yes, I can. や No, I can't. だけでなく、できること (I can ~.) も付け加えて話す。そして、身近な人について知った喜びを表現させるため、Good.Nice. などのリアクションを使わせていく。相手のことを知り、考えや気持ちを認め、他者へ配慮することの必要性を実感させたい。先生を紹介する活動では、ワールド・カフェ・スタイルで行い、様々なペアで紹介し合うようにする。紹介では、三人称 (He / She) を使い、インタビューしてきたことを話させる。Looking back の時に、ワールド・カフェ・スタイルで紹介し合った中で、一番印象に残っていることをワークシートの「～さんから聞いた～先生のできること」に書かせる。

8. 単元計画 (全8時間、本時7/8)

次	時間	授業時間	主な活動 (【】、○) 【】 = 紙面化されている活動
1	1-1	短時間学習	Let's Chant Can you sing well? を歌う。
	1-2		アルファベットの発音に気を付けて、Jingle を歌う。
	2	45分授業	<ul style="list-style-type: none"> 誰が一番速く走れるか、高く跳べるかなど、動物たちが競っている様子を見て、I can ~. You can ~. の意味を理解する。 「できる」「できない」を表す表現を使い、慣れ親しんできた動作を表す語句で友だちのできること、できないことをインタビューする。
	1-3	短時間	友だちのできることやできないことを聞いて知ろう。
2	3-1	短時間学習	動作を表す言葉を繰り返し発音したりジェスチャーしたりする。
	3-2		自分ができること、できないことを紹介する。
	4	45分授業	友だちができること、できないことを紹介する場面で He や She などの三人称に出会う。
	3-3	短時間	He や She の使い方を確認する。
3	5-1	短時間学習	できること、できないことをインタビューする。
	5-2		友だちのことを紹介する。①
	5-3		友だちのことを紹介する。②
	6	45分授業	インタビューする先生を決め、インタビューする内容を考える。班でインタビューの練習を行う。

4	7 本時	45分 授業	・校内の先生にインタビューをして、相手のできることやできないことを聞き、その内容を紹介する。
	8-1	短時間 学習	Let's Listen3 を聞く。 Who is he? や Who is she? のクイズについて知る。
	8-2		班で先生のクイズを考える。
	8-3		全体交流で校内の先生のできること、できないことをクイズにする。

9. 本時について

(1) 本時の目標

- ・インタビューをして、相手のできることやできないことを聞き、その内容を紹介する。

(2) 本時の指導過程 (45分)

児童の学習活動	指導者の活動と留意点・ 評 評価<方法>	
	HRT	ALT
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 Let's start English. 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に挨拶をする。 ・元気よく挨拶し楽しい雰囲気を作る。 ・ALT の問いかけの補助をする。 ・4つのルールを確認する。 (Smile, Eye contact, Listen carefully, Clear voice) ・リアクションの確認をする。 (Good, Great, Perfect, Excellent, Me too, Cool, I see., Wow.) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に挨拶をする。 ・天気や今日の日付などをテンポよく問いかける。
<p>2. Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Chant p35 Can you sing well? を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に歌う。 ・最初に普通のスピードで聞く。 ・児童が歌いやすいようにスピードが遅い方から歌わせ、その後普通のスピードで歌わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に歌う。
<p>3. Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRT と ALT のやり取りを見た後、ALT とやり取りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてにつなげるため、HRT と ALT と会話した後、ALT と児童でやり取りをする。 ・リアクションを取りながら話をする。 ・ピクチャーカードやイラストを見せながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRT と好きなスポーツや食べ物などを会話する。

4つのルールを児童に言わせて確認する。
リアクションとともにジェスチャーを交えて確認を行う。

既習表現を使って、児童の興味関心を引く会話を聞かせる。

<p>【Small Talk】 ALT: Great! They can sing very well. H: Yes. Do you like singing? A: Yes, I do. I like singing. I can sing Japanese songs! H: Oh! Really? That's great! Do you like Japanese songs? A: Yes. I like Japanese songs and Japanese food. H: Wow. You like Japanese food. What Japanese food do you like? A: I like Sushi. I love Salmon very much. H: Me, too. What Japanese food do you like? (児童に問いかける) H: (ALTに) Can you cook any Japanese food? A: Yes, I can. I can cook Okonomiyaki. H: You can cook Okonomiyaki. Very nice. Can you cook Okonomiyaki? (児童に問いかける) A: I like Japanese sports, too. Can you do Kendo? Can you do Kendo? (児童に問いかける) H: No, I can't. I can't do Kendo. But I can play baseball. A: I see. I can play baseball, too.</p>	<p>本時のターゲットセンテンスを意識し、リアクションやジェスチャーを交えながら行う。 特に“can”, “can't”はゆっくりはつきり行う。</p>	
<p>4. Today's Goal ・本時のめあてを確認する。</p>	<p>好きな食べ物の写真を用意し、食べ物を示しながら話をする。</p> <p>既習表現を使い、質問を行い、やり取りを広げる。 HRTは児童が困っていたら支援をする。</p>	
<p>川崎小の先生のできることやできないことを聞いて紹介しよう。</p>		
<p>5. Practice ・英単語の発音練習を行う。</p> <p>テンポよく行う。 HRTとALTは役割分担をし、時間の無駄なく進められるよう工夫する。</p>	<p>・Clear voiceで発音するように指示する。 ・発音したフラッシュカードを黒板に貼っていく。</p>	<p>・フラッシュカードを使い、本時に関わる英単語の発音を練習する。</p> <p>児童が本当に聞きたいことが質問できるよう、We Can! にない表現も確認する。</p>
<p>6. Activity① ・デモンストレーションを見て、活動の見通しをもつ。</p> <p>・先生にインタビューする。 Can you ~ ?</p>	<p>・ALTとActivity①のデモンストレーションを行い、児童に活動の見通しをもたせる。 ・インタビューする時の注意点を確認する。 ・予め用意しておいたワークシートを出す。</p> <p>・インタビューできずにいる児童にはカードを渡す。 評インタビューする相手にできることを尋ねているか。</p>	<p>・HRTとActivityのデモンストレーションを行う。</p> <p>・先生にインタビューできずにいる児童へ助言をする。</p>

<p>・リアクション Great. Good. Nice. That's nice. Sounds good. I see. I know. Really? Me, too. One more please.など</p> <p>7. Activity②</p> <p>・デモンストレーションを見て、活動の見通しをもつ。</p> <p>・先生ができること、できないことをワールド・カフェ・スタイルで紹介する。 He can/ can't ~ . She can/ can't ~ .</p> <p>・中間交流を行う。</p> <p>・たくさんペアを変え、発話数、やり取りの機会を増やす。 ・紹介するときに写真やイラストを準備する。</p> <p>8. Looking back</p> <p>・本時の活動について振り返る。 ・振り返りシートに本時の振り返りを記入する。</p> <p>9. Closing Let's finish English. Goodbye. See you</p>	<p>まず最初に、隣の席の児童と行き、困ったことはなかったか等確認する。</p> <p>・ALT と Activity②のデモンストレーションを行い、児童に活動の見通しをもたせる。</p> <p>・ワールド・カフェ・スタイルでインタビューした先生のできること、できないことを紹介させ合う。</p> <p>・机間指導し、紹介できずに困っている児童はカードやジェスチャーで紹介させる。</p> <p>・中間交流をさせる。</p> <p>・紹介している活動を見て、良いリアクションをしているペアや He/ She can ~. を複数回使ったり、それ以外の表現を使っているペアがいた場合、指名し発表させる。</p> <p>・ペアのリアクションが小さい場合は、リアクションを確認する。</p> <p>評 相手に第三者について、He, She を使ってできること、できないことを伝えているか。</p> <p>・振り返り用紙に本時の学習で紹介した先生のできること・できないことを書く。He can ~. She can ~. などで書かせる。</p> <p>・一緒に挨拶をする。</p>	<p>・HRT と Activity②のデモンストレーションを行う。</p> <p>・机間指導し、困っている児童には助言する。</p> <p>“He like”や“she like”のように文法的に間違った表現が予想される。既習表現を使うことに対しては評価した後、正しい表現を確認する。ただし、文法的な説明は行わない。</p> <p>児童本人がインタビューで聞き取ったことではなく、友だちとのやり取りで知ったことを残す。やり取りの内容を振り返る時間とすることが大切。</p> <p>・一緒に挨拶をする。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 板書計画

日にち	Today's Goal
曜日	川崎小の先生のできることやできないことを聞いて紹介しよう。
天気	Can you ~ ?
Greeting Warming up Small talk Practice Activity① Activity② Looking back Closing	イラスト イラスト イラスト イラスト イラスト
	リアクション
	イラスト イラスト イラスト イラスト イラスト
	リアクション

第5学年 外国語活動 学習指導案

亀山市立川崎小学校

1. 単元名 Unit5 She can run fast. He can jump high. (We Can! 1 文部科学省)

9. 本時について

(1) 本時の目標

・インタビューをして、相手のできることやできないことを聞き、その内容を紹介する。

(2) 本時の指導過程 (45分)

児童の学習活動	指導者の活動と留意点・ 評 評価<方法>	
	HRT	ALT
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 Let's start English. 	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に挨拶をする。 元気よく挨拶し楽しい雰囲気を作る。 ALT の問いかけの補助をする。 4つのルールを確認する。 (Smile, Eye contact, Listen carefully, Clear voice) リアクションの確認をする。 (Good, Great, Perfect, Excellent, Me,too, Cool, I see., Wow.) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒に挨拶をする。 天気や今日の日付などをテンポよく問いかける。
<p>2. Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> Let's Chant p35 Can you sing well? を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒に歌う。 最初に普通のスピードで聞く。 児童が歌いやすいようにスピードが遅い方から歌わせ、その後普通のスピードで歌わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒に歌う。
<p>3. Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT のやりとりを見た後、ALT とやりとりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてにつなげるため、HRT と ALT と会話した後、ALT と児童でやりとりをする。 リアクションを取りながら話をする。 ピクチャーカードやイラストを見せながら話す。 	<ul style="list-style-type: none"> HRT と好きなスポーツや食べ物などを会話する。

【Small Talk】

ALT: Great! They can sing very well.

H: Yes. Do you like singing?

A: Yes, I do. I like singing. I can sing Japanese songs!

H: Oh! Really? That's great! Do you like Japanese songs?

A: Yes. I like Japanese songs and Japanese food.

H: Wow. You like Japanese food. What Japanese food do you like?

A: I like Sushi. I love Salmon very much.

H: Me, too. What Japanese food do you like? (児童に問いかける)

H: (ALTに) Can you cook any Japanese food?

A: Yes, I can. I can cook Okonomiyaki.

H: You can cook Okonomiyaki. Very nice.

Can you cook Okonomiyaki? (児童に問いかける)

A: I like Japanese sports, too. Can you do Kendo?

Can you do Kendo? (児童に問いかける)

H: No, I can't. I can't do Kendo. But I can play baseball.

A: I see. I can play baseball, too.

4. Today's Goal

- ・本時のめあてを確認する。

川崎小の先生のできることやできないことを聞いて紹介しよう。

5. Practice

- ・英単語の発音練習を行う。

- ・ **Clear voice** で発音するように指示する。
- ・発音したフラッシュカードを黒板に貼っていく。

- ・フラッシュカードを使い、本時に関わる英単語の発音を練習する。

6. Activity①

- ・デモンストレーションを見て、活動の見通しをもつ。

- ・ALT と Activity①のデモンストレーションを行い、児童に活動の見通しをもたせる。
- ・インタビューする時の注意点を確認する。
- ・予め用意しておいたワークシートを出す。

- ・HRT と Activity のデモンストレーションを行う。

- ・先生にインタビューする。

Can you ~ ?

- ・インタビューできずにいる児童にはカードを渡す。
評インタビューする相手にできることを尋ねているか。

- ・先生にインタビューできずにいる児童へ助言をする。

- ・リアクション

Great. Good. Nice.
That's nice. Sounds good. I see. I know.

<p>Really? Me, too. One more please.など</p> <p>7. Activity②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションを見て、活動の見通しをもつ。 ・先生ができること、できないことをワールド・カフェ・スタイルで紹介する。 He can/ can't ～ . She can/ can't ～ . ・中間交流を行う。 <p>8. Looking back</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動について振り返る。 ・振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 <p>9. Closing</p> <p>Let's finish English. Goodbye. See you</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT と Activity②のデモンストレーションを行い、児童に活動の見通しをもたせる。 ・ワールド・カフェ・スタイルでインタビューした先生のできること、できないことを紹介させ合う。 ・机間指導し、紹介できずに困っている児童はカードやジェスチャーで紹介させる。 ・中間交流をさせる。 ・紹介している活動を見て、良いリアクションをしているペアや He/ She can ～. を複数回使ったり、それ以外の表現を使っているペアがいた場合、指名し発表させる。 ・ペアのリアクションが小さい場合は、リアクションを確認する。 評相手に第三者について、He, She を使ってできること、できないことを伝えているか。 ・振り返り用紙に本時の学習で紹介した先生のできること・できないことを書く。He can ～. She can ～. などで書かせる。 ・一緒に挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRT と Activity②のデモンストレーションを行う。 ・机間指導し、困っている児童には助言する。 ・一緒に挨拶をする。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第5・6学年 小学校外国語活動指導案

紀北町立赤羽小学校

1. 単元名 **Unit 4 I like my town.** 自分たちの町・地域 (**We Can! 2** 文部科学省)
2. 単元目標
 - ・地域のよさや課題について自分の考えや気持ちを伝え合ったり、例を参考に語順を意識しながら書いたりする。(外国語への慣れ親しみ)
 - ・地域のよさなどについて、伝え合おうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
3. 言語材料 (下線は新出表現, 下線は6年生は既習, 5年生は未習)
 - We have / don't have [a park].
 - We/You can [see many flowers]. We/You can enjoy [fishing / shopping / swimming].
 - I want a [library / park]. [Sakura] is [nice / beautiful].
 - 施設・建物 amusement park, park, shop(s), library, cafe, convenience store, hospital, department store, bookstore, aquarium, rice field
 - 自然・生物 nature, river, flower(s), chestnut(s), persimmon(s), hydrangea(s), snail(s), crab(s)

4. 関連する新学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと (やり取り)	ウ 自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
話すこと (発表)	ウ 身近で簡単なことならについて、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	イ 自分の身近なことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

5. 中学校外国語科との関連

- 1年 NEW CROWN Lesson 3 I like soccer. 一般動詞 (like, have)
 Let's Talk 6 お昼ごはんを食べよう (want)
 Lesson 7 Sports for Everyone (can)
- 2年 NEW CROWN Lesson 4 Enjoy Sushi (enjoy の用法)
 Project 3 自分の町を紹介しよう

6. 単元について

本単元は、自分たちの地域よさや課題について自分の考えや気持ちを伝え合う内容になっている。単元の第一時・第二時では、町の中にある施設や自然を表す語句と、**have**（～がある）/**don't have**（～がない）の用法を知り、それらを使って町にあるもの・ないものを伝え合う学習をする。第三時では、友達の見解を聞いて感想や意見を言う活動をし、第四時で、校区紹介のプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの内容を受けて自分の考えや気持ちを伝え合う。校区紹介のプレゼンテーション作成と発表を目標として、「聞く、読む、話す（やり取り、発表）、書く」の5領域を統合的に指導できる単元である。

7. 指導について

①短時間学習と授業の実施

外国語活動は、45分の授業週1回と朝15分の短時間学習を週に3回行い、年間70時間の授業を行っている。短時間学習では新しい語句や表現を知り慣れ親しむことを中心とし、45分の授業は、言語活動の時間を多く取り入れる内容になるよう授業計画を立てている。短時間学習は、15分という短い時間であるが、回数を多く行うことで、児童にとっては日常的に外国語に触れることになり、聞く力や話す力を高めることに効果的であると考える。

②複式学級における外国語活動の取組

年間指導計画は5年生と6年生の2年間の学習内容を1年間に圧縮した内容で作成する。2年間で同じ内容を1年間で学習することになるが、少人数であるため、児童が英語を使って活動する時間を十分に確保することができる。2年間で同じ内容を学習することによって、語彙や表現に繰り返し慣れ親しむことができ、学習内容の理解を深めることができる。5、6年生が同じ内容を一緒に学び、6年生にとっては既習事項の復習となるため、6年生は、5年生に対して学習者としてのモデルを示すことが期待される。

評価については、学年の特性を考慮し、5年生、6年生、それぞれの到達目標を設定し、評価する。

③教科等横断的な視点からの取組

校区紹介のプレゼンテーションは、「総合的な学習の時間」で作成し、外国語活動でプレゼンテーションを活用した発表を行う。

取組の流れ

< 1 学期 >

- ・プレゼンテーションのテーマの設定
意見交換を行い「The nature of Akaba and Shiko」とテーマを設定する。
- ・プレゼンテーションの構成の決定
季節ごとの自然の様子を紹介する。
- ・「春」の作成
児童・担任が撮影した校区の春の風景の写真に紹介文をつける。
- ・「梅雨」の作成
児童・担任が撮影した校区の梅雨の風景の写真に紹介文をつける。

< 2 学期 >

- ・「夏」の作成
6年生の保護者が撮影した夏の風景の写真に紹介文をつける。
- ・プレゼンテーションの担当決めと練習。
- ・「秋」の作成
児童・担任が撮影した秋の風景の写真に紹介文をつける。
- ・プレゼンテーションの練習（「総合的な学習の時間」及び外国語活動）
- ・プレゼンテーションの発表（外国語活動）【本時】

< 3学期 >

- ・「冬」の作成
児童・担任が撮影した冬の風景の写真に紹介文をつける。
- ・プレゼンテーションの練習（「総合的な学習の時間」及び外国語活動）
- ・完成したプレゼンテーションの発表（2月の「たびだちの会」）

8. 単元計画（4時間）

時	目標（◆）と主な活動（【 】, ○） 【 ｝ = 誌面化されている活動	評評価の観点〈方法〉
1	<p>◆様々な地域の説明を聞き、理解する。</p> <p>短時間学習 1-1 ○p26-27のイラストを見て、町の中にある施設や自然の表現を知る。 ○「～がある。」という意味の have の使い方を 知る。 We have _____. / We don't have _____.</p> <p>短時間学習 1-2 【Let's Listen 1】 p27 ・イラストを見ながらどの町のことを話しているか を聞いて、□に番号を書く。</p> <p>短時間学習 1-3 【Let's Play 2】 p28 ・p28のイラストを使って、ポインティング・ゲ ームをする。</p>	<p>町にある施設や自然の表現を聞いたり言ったりしている。 〈行動観察〉</p> <p>まとまりのある英文を聞いて、あてはまる番号を書いている。 〈行動観察・記述分析〉</p> <p>施設名を聞き取って、その絵を指さしている。 〈行動観察〉</p>
2	<p>◆自分の住みたいと思う地域の説明をする。</p> <p>○p28のイラストにある施設の表現を確認する。 ・p28のイラストを見て、ALTの後について施設の名前を言う。 【Let's Play 1】 p27</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・誌面にある6つの町の絵から、自分が住みたいと思う町を一つ選んで伝え合う。 ○地域に欲しいものについて伝え合う。 <p>【Let's Watch and Think 1】 p29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見て、地域にあるものに○を、欲しいものに◎を表に書く。 ・p28の絵の中から自分の地域に欲しいものを伝え合う。 	<p>自分が住みたいと思う町を選んで、その理由を伝えている。</p> <p>〈行動観察〉</p> <p>自分の地域に欲しいものを伝えている。</p> <p>〈記述分析・行動観察・振り返りカード点検〉</p>
3	◆友達の意見を聞き、それについて意見を言い合う。	
	<p>短時間学習 3-1</p> <p>【Let's Play 3】 p30</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が言う動作や好きなもの・ことを聞き、誌面にある絵を指す。 	<p>動作やすきなもの・ことを聞き取って、その絵を指さしている。</p> <p>〈行動観察〉</p>
	<p>短時間学習 3-2</p> <p>【Let's Listen 3】 p29</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にあるものとそのよいところについて聞いて、表にまとめる。 ○感想の言い方を知る。 	<p>町の紹介を聞いて、地域にあるものやよいところを書いている。</p> <p>〈行動観察・記述分析〉</p>
	<p>短時間学習 3-3</p> <p>【Let's Watch and Think 2】 p31</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見て、どんな感想を言っているか、表にまとめる。 	<p>映像を見て、どんな感想を言っているか書いている。</p> <p>〈行動観察・記述分析〉</p>
4 (本時)	<p>◆自分たちの校区紹介をし、自分たちの地域の好きな季節とその理由を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校区紹介のプレゼンテーションの練習をする。 ○校区紹介 “The nature of Akaba and Shiko”のプレゼンテーションをする。 ○地域の好きな季節を伝え合う。 ・自分たちの地域の好きな季節とその理由を伝え合う。 	<p>他者に配慮しながら、校区紹介をしている。</p> <p>〈行動観察・振り返りカード点検〉</p> <p>自分たちの地域について、好きな季節とその理由を伝え合っている。</p> <p>〈行動観察〉</p>

9. 本時について

(1) 本時の目標

- ・他者に配慮しながら、自分たちの地域のよさを伝える。

(2) 本時の指導計画 (45分)

児童の学習活動	指導者の活動と留意点	
	HRT	ALT
<p>1. Greetings Please stand up. Let's start English class.</p> <p>・ALT、HRT と挨拶をする。</p> <p>2. Small Talk : 季節</p>	<p>・子どもたちと挨拶をする。</p>	<p>・子どもたちと挨拶をする。</p>
<p>HRT : It's cold today. It's already December. Dustin, do you like winter? ALT : Yes, I do. / No, I don't, HRT : Why? ALT : Because _____. HRT : I see. ALT : How about you? Do you like winter? HRT : No. I don't like winter. I like summer. ALT : Why do you like summer? HRT : Because we have a long summer vacation.</p>		
<p>ALT と HRT のやりとりの後で、ALT または HRT が、児童 2～3 人に好きな季節をたずねる。HRT は、5 年生は好きな季節を、6 年生は好きな季節とその理由を答えるよう導くが、5 年生が理由も答えられそうなら、理由もたずねる。</p>		
<p>3. Today's Goal 1</p> <p>・本時のめあて 1 を確認する。</p>	<p>赤羽や志子のよいところを紹介するプレゼンテーションをしよう。</p>	
<p>4. Activity 1</p> <p>・プレゼンテーションをするときに、気を付ける 5 つのポイントを確認する。 Clear voice Eye contact Smile Key words Motion</p> <p>・写真を使って、5 年生はグループで、6 年生はペアでプレゼンテーションの練習をする。</p>	<p>・まず、プレゼンテーションの練習をすることを伝え、相手によく伝わるように話すには、どんなことに気を付けたらいいか確認する。</p> <p>・プレゼンテーションに使う写真を配る。</p> <p>・児童の練習の様子を見ながら、必要な助言をする。</p>	<p>児童に、5 つのポイントは何だったかたずねる。5 つのポイントのうち、これまでの児童の練習の様子から HRT が特に意識してほしいと考えるポイントについて伝える。</p> <p>・児童の練習の様子を見ながら、必要な助言をする。</p>

<p>5. 中間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達のプレゼンテーションのよいところを見つけて答える。 <p>6. Activity 2</p> <ul style="list-style-type: none"> パワーポイントを使って、校区紹介のプレゼンテーションをする。 <div data-bbox="209 640 612 757" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>聞いている人としてしっかりアイコンタクトをとることを意識させる。</p> </div> <p>7. Today's Goal 2</p> <ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT のやり取りを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 5つのポイントを意識して練習している児童を紹介し、どこがよかったか他の児童に聞く。 パワーポイントの操作をする。 中間交流を確認したポイントを意識して発表するように指示する。 <div data-bbox="639 757 1007 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評 他者に配慮しながら、校区紹介をしている。＜行動観察・振り返りカード点検＞</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションを見て、校区のどの季節が好きか ALT と交流する。 	<div data-bbox="1054 304 1401 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一人指名し、プレゼンテーションをするように言う。聞いている児童には、紹介された児童の「よかったところを自分のプレゼンテーションに取り入れてみよう」と助言する。</p> </div> <div data-bbox="1038 689 1394 835" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ALT に伝える等、誰に何のために伝えるのかを明らかにして取組ことで、児童の意欲につなげる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションを見て、校区のどの季節が好きか HRT と交流する。
<div data-bbox="312 1167 983 1637" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>HRT : Which season do you like in Akaba and Shiko? ALT : I like _____. HRT : Why? Why do you like _____. ALT : Because I can enjoy _____. I like _____. HRT : Oh, I see. ALT : How about you? Which season do you like in Akaba and Shiko? HRT : I like spring in Akaba and Shiko. ALT : Why? Why do you like spring in Akaba and Shiko? HRT : Because I like flowers. We (can) see many beautiful flowers in spring in Akaba and Shiko. ALT : Sounds nice.</p> </div> <div data-bbox="1023 1173 1394 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童のプレゼンテーションを受けて、好きな季節についてやり取りする。やり取りの中に、“Oh, I see.” や “Sounds nice.” などのリアクションワードを入れ、2つめの Goal である「伝え合う活動」へのつながりを示す。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> HRT と ALT の会話から聞き取れた内容を発表する。 本時のめあて2を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童を指名して、聞き取れた内容を発表させる。 	
<div data-bbox="395 1883 1246 1957" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>自分たちの地域の好きな季節とその理由を伝え合おう。</p> </div>		

<ul style="list-style-type: none"> ・友達や HRT、ALT と校区のどの季節が好きか交流する。 <div data-bbox="229 338 608 521" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の好きな季節やその理由をはっきり伝えること、相手の話に適切な英語でリアクションすることを意識させる。</p> </div> <p>8. Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに記入する。 <p>9. Closing</p> <p>Let's finish English class. Goodbye. See you next time.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと校区のどの季節が好きか交流する。 ・前半で発表した内容を使うよう促す。 <div data-bbox="639 394 1007 517" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評 自分たちの地域について、好きな季節とその理由を伝え合っている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 <p>Let's finish English class.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと校区のどの季節が好きか交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 <div data-bbox="1034 685 1385 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分たちのプレゼンテーションについての振り返りの他に、「伝え合う」ことに関わる内容を書いている児童の振り返りを紹介する。</p> </div>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(例) 評価基準

外国語活動ふり返りカード(5年)

We can! Unit 5年 名前

外国語活動のふり返り		月	日
コミュニケーション	①積極的に英語を声に出していってみようとする。 ②相手の目を見て言葉のやりとりをする。 ③相手の話をしっかりと聞く。 ④相手にとどく声で話す。 ⑤笑顔で活動をする。	()	()
アクティビティ	・グループでプレゼンテーションをする。 ・友達のプレゼンテーションのいいところを見つける。 ・5つのポイントに気を付けて発表する。 ・自分たちの地域の好きな場所を英語で紹介する。 ・英語でリアクションをする。	() () () () ()	() () () () ()
今日、学んだこと・感想		A=たくさんリアクションした。 B=時々リアクションした。 C=リアクションしなかった。	

A=一人ですらすらと言えた。
 B=先生や友達の助けってもらって言えた。
 C=言えなかった。

A=全員と伝え合った。
 B=何人かと伝え合った。
 C=だれとも伝え合わなかった。

第5・6学年 小学校外国語活動指導案

紀北町立赤羽小学校

1. 単元名 Unit 4 I like my town. 自分たちの町・地域 (We Can! 2 文部科学省)

9. 本時について

(1) 本時の目標

・他者に配慮しながら、自分たちの地域のよさを伝える。

(2) 本時の指導計画 (45分)

児童の学習活動	指導者の活動と留意点	
	HRT	ALT
<p>1. Greetings Please stand up. Let's start English class.</p> <p>・ALT、HRT と挨拶をする。</p> <p>2. Small Talk : 季節</p>	<p>・子どもたちと挨拶をする。</p>	<p>・子どもたちと挨拶をする。</p>
<p>HRT : It's cold today. It's already December. Dustin, do you like winter? ALT : Yes, I do. / No, I don't, HRT : Why? ALT : Because _____. HRT : I see. ALT : How about you? Do you like winter? HRT : No. I don't like winter. I like summer. ALT : Why do you like summer? HRT : Because we have a long summer vacation.</p>		
<p>3. Today's Goal 1 ・本時のめあて1を確認する。</p>		
<p>赤羽や志子のよいところを紹介するプレゼンテーションをしよう。</p>		
<p>4. Activity 1 ・プレゼンテーションをするときに、気を付ける5つのポイントを確認する。 Clear voice Eye contact Smile Key words Motion</p>	<p>・まず、プレゼンテーションの練習をすることを伝え、相手によく伝わるように話すには、どんなことに気を付けたらいいか確認する。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・写真を使って、5年生はグループで、6年生はペアでプレゼンテーションの練習をする。 <p>5. 中間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のプレゼンテーションのよいところを見つけて答える。 <p>6. Activity 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使って、校区紹介のプレゼンテーションをする。 <p>7. Today's Goal 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRT と ALT のやり取りを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションに使う写真を配る。 ・児童の練習の様子を見ながら、必要な助言をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・5つのポイントを意識して練習している児童を紹介し、どこがよかったか他の児童に聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントの操作をする。 ・中間交流を確認したポイントを意識して発表するよう指示する。 <p>評他者に配慮しながら、校区紹介をしている。＜行動観察・振り返りカード点検＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを見て、校区のどの季節が好きか ALT と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の練習の様子を見ながら、必要な助言をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを見て、校区のどの季節が好きか HRT と交流する。
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

HRT : Which season do you like in Akaba and Shiko?
 ALT : I like _____.
 HRT : Why? Why do you like _____.
 ALT : Because I can enjoy _____. I like _____.
 HRT : Oh, I see.
 ALT : How about you? Which season do you like in Akaba and Shiko?
 HRT : I like spring in Akaba and Shiko.
 ALT : Why? Why do you like spring in Akaba and Shiko?
 HRT : Because I like flowers. We (can) see many beautiful flowers in spring in Akaba and Shiko.
 ALT : Sounds nice.

<ul style="list-style-type: none"> ・HRT と ALT の会話から聞き取れた内容を発表する。 ・本時のめあて2を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を指名して、聞き取れた内容を発表させる。 	
<p>自分たちの地域の好きな季節とその理由を伝え合おう。</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ・友達や HRT、ALT と校区のどの季節が好きか交流する。 <p>8. Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに記入する。 <p>9. Closing</p> <p>Let's finish English class. Goodbye. See you next time.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと校区のどの季節が好きか交流する。 ・前半で発表した内容を使うよう促す。 <p>評自分たちの地域について、好きな季節とその理由を伝え合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 <p>Let's finish English class.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと校区のどの季節が好きか交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導 <p>Goodbye. See you next time.</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

外国語活動のふり返りカード(5年)

We can!

Unit

5年 名前

外国語活動のふり返り		月	日
コミュニケーションについて	①積極的に英語を声に出していってみようとする。	()	()
	②相手の目を見て言葉のやりとりをする。	()	()
	③相手の話をしっかりと聞く。	()	()
	④相手にとどく声で話す。	()	()
	⑤笑顔で活動をする。	()	()
アクティビティについて	・グループでプレゼンテーションの練習をする。	()	()
	・友達のプレゼンテーションのいいところを見つける。	()	()
	・5つのポイントに気を付けてプレゼンテーションをする。	()	()
	・自分たちの地域の好きな季節を伝え合う。	()	()
	・英語でリアクションをする。	()	()
今日、学んだこと・感想			

※「アクティビティについて」の欄は、Unit ごとに設定する。

外国語活動ふり返りカード(6年)

We can! Unit 6年 名前

外国語活動のふり返り		月	日
コミュニケーションについて	①積極的に英語を声に出していってみようとする。 () ②相手の目を見て言葉のやりとりをする。 () ③相手の話をしっかりと聞く。 () ④相手にとどく声で話す。 () ⑤笑顔で活動をする。 ()		
アクティビティについて	・ペアでプレゼンテーションの練習をする。 () ・友達のプレゼンテーションのいいところを見つける。 () ・5つのポイントに気を付けてプレゼンテーションをする。 () ・自分たちの地域の好きな季節とその理由を伝え合う。 () ・英語でリアクションをする。 ()		
今日、学んだこと・感想			

※「アクティビティについて」の欄は、Unit ごとに設定する。

1. 単元名 Unit4 I like my town. (We Can! 2 文部科学省)

2. 単元目標

- ・ 亀山のよさや課題などについて自分の考えや気持ちを伝え合ったり、地域のよさや願いについて伝え合ったりしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・ 亀山のよさや欲しい施設等について聞いたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・ 亀山の良さや願いなどについて、自分の意見を持ち、伝えるための英語の語順や語句に気づく。
(言語や文化に対する気付き)

3. 言語材料

- ・ We have / don't have (a park).
- ・ We can (see many flowers). We can enjoy (fishing / shopping / swimming).
- ・ I want a (library /park). Kameyama is nice.
- ・ 施設・建物 : amusement park, aquarium, swimming pool, stadium, roller coaster, Ferris wheel, nature
- ・ 動作 : fishing, dancing, jogging, playing, reading, shopping, singing, walking
[既出表現] (library, school, park, enjoy, have, want, buy, see, eat, play)
状態・気持ち、飲食物、動作、スポーツ

4. 中学校外国語科との関連

- 1年 ONE WORLD 1 Lesson3 メイの好きなもの
一般動詞 (like, have, want を学習)
- 2年 ONE WORLD 2 Lesson3 Guide Dogs Activity
Lesson4 Ms. King's Trip with Her Friend
Writing Tips
- 3年 ONE WORLD3 Project1 自分たちの町のガイドブックを作ろう

5. 単元について

今後ますますグローバル化が進む社会で必要とされるグローバル人材とは、英語力があるだけではない。グローバル人材になる大きな条件の一つは、地域の一員として自分の住む地域を知り、愛し、地域のことを世界に発信できることであると考えます。

本単元では、初めに **have /don't have** を使って亀山にある施設、亀山にない施設を表現する方法を知る。子どもたちは国語科「ようこそ私たちの町へ」の単元で、亀山市を紹介するパンフレットを作成している。紹介テーマは、亀山の歴史(史跡)、食べ物、店、交通、祭り、自然である。子どもたちは、それぞれのグループに分かれて亀山について調べる中で、亀山の特徴を理解していく。本単元が、未来の亀山に必要な施設について **I want** を使って表現することを通して、亀山での営みについて考えていくことにつながるだろう。

また、単元のまとめとして、英語を使って、自分たちが住む町のミニポスターを作成する活動に取り組む。子どもたちにできあがったミニポスターを使いながら発表させることで、「聞く、読む、話す、書く」という四つの技能を統合的に指導できる単元である。

6. 指導について

外国語活動では、**Greeting、Warming up、Practice、Activity①、Sharing time、Activity②、Looking back、Greeting** の活動を基本とし、黒板にその時間の授業の流れを掲示することで、活動の見通しを子どもたちにもたせている。また教室側面には、前の時間の表現や簡単なクラスルームイングリッシュを掲示することで、表現方法の定着を図っている。

①学ぶ意欲を高めるための単元・題材構成や導入の工夫

子どもたちは、国語科で、地元亀山を紹介するパンフレット作りに取り組んだ。そこで、調べたことをもとに、外国語活動の時間では、外国人の方にも亀山のことを伝えるために、外国語版の亀山市の紹介ポスターを作ることを伝える。この活動は、修学旅行先などで外国人の方に自分たちの住んでいる町について紹介できることにつながるのので、子どもたちは「やってみたい、伝えたい」という思いをもつだろう。また、亀山にあるものだけでなく、これから欲しいものについても考えさせることで、亀山のよさを再認識したり、亀山の抱える課題やその解決策について考える活動に主体的に取り組ませることができると考える。

②他者と協働して思考を深める指導の工夫

外国語活動では、特に言語活動を大切にしていきたい。**HRT** と **ALT**、**HRT** と子どもたち、**ALT** と子どもたち、子どもたち同士でのやり取りなど多様な形をとり、メリハリをつけて活動する。また、様々な活動をペアやグループで行うことにより、表現の学び合いの機会を増やし、「話すこと」への自信をつけさせ、子どもたちの「伝える」ことへの不安感を少なくしたい。本時では、それぞれのグループの子どもや **ALT**、英語ボランティアとの交流が活発になるようにワークシートを用意し、活動させる。

③次の学びにつながる振り返りの工夫

外国語活動用の振り返りカードを作成し、毎時間 **Looking back**（振り返り）の時間を確保している。めあてに対して自分がどうだったかを振り返りカードに書かせる。また、友だちの考えを聴いて感じたことや次の外国語活動でやってみたいことも書かせたい。そうすることで、振り返りカードに書かれていた内容を次の時間の導入で紹介して活動につなげることができ、本時の活動への意欲や、より明確なイメージをもたせたりすることができると思う。

7. 単元計画（全8時間）

時間	学習内容
1 2	have /don't have を使って亀山にある施設、亀山にない施設を表現する方法を知り、新しく学習した施設の単語を十分に使えるように練習する。
3 4	I like～.やI enjoy～. という表現を使い、それぞれの施設のよさやそれによって受ける恩恵について考える。また、亀山にない施設について、 I want ～. という表現を使うことで、地域の改善についての自分の考えを表現できることを知る。
5 6本時	自分たちの町にある施設、あってほしい施設について理由とともに友だちや先生に伝える。
7 8	自分の町のポスターを作り、発表する。

<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 		
<p>亀山の町にあってほしい施設などについて友だちや先生に伝えよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・HRT の話を聞き、内容を推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の町にある施設、あったら良いなと思う施設など 	
<p>HRT の住んでいる町について話をし、今日の授業の活動につながる内容を意識する。</p>		
<p>HRT: I live in Suzuka. We have a big shopping mall. We have Suzuka Circuit. We have a big factory. But we don't have a stadium. I want a big stadium. I like baseball. I like soccer, too. So I want big stadium. What do you want in Kameyama?</p> <p>ALT: I want a zoo.</p> <p>HRT: Why? Why do you want a zoo?</p> <p>ALT: Because I like animals. I like pandas! Do you</p> <p>HRT: Yes, I do. They are cute.</p> <p>HRT: ○○, what animals do you like?</p> <p>S : I like tigers.</p> <p>HRT: Good. Why?</p> <p>S : It's cool.</p> <p>HRT: Yes! Tigers are cool!!</p>		
<p>6 Sharing time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRT と ALT の会話の内容について、どんなことがわかったかペアで交流する。 ・鈴鹿に住んでいる ・工場がある ・ベルシティー ・サーキットがある ・球場がほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで聞き取れた内容を推測させ、交流させることで内容の理解をはかる。 ・机間巡視して、困っているペアがあれば声をかける。 ・子どもを指名し、聞き取れた内容を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視して、困っているペアがあれば声をかける。
<p>7 Practice</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I want a/an～ の表現について、ALT の後について練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT、児童と一緒に練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がほしいと予想される施設 (station, convenience store, aquarium, stadium など) を用いて、“I want a/an～” の表現を使って練習させる。 <p>I want a park.</p> <p>I want a station.</p> <p>I want a book store.</p>
<p>国語科の「ようこそ！私たちの町へ」の単元と関連して、自分が亀山にほしい施設等についてあらかじめつかんでおき、児童のほしいものを英語で言えるよう支援する。</p>		
<p>8 Activity①</p>		

<p>・亀山にあってほしい施設について伝え合う。</p> <p>What do you want in Kameyama? -I want a stadium.</p> <p>9 Sharing time</p> <p>・活動の様子を全体で交流する。</p>	<p>・活動のデモンストレーションを見せる。</p> <p>HRT: What do you want in Kameyama? ALT: I want a zoo. HRT: Oh, nice! Why? Why do you want a zoo? ALT: I like animals.</p> <p>・困っている子どもがいたら、助言する。 ・できれば、ほしい理由も伝えるよう支援する。</p> <p>評 I want a/an～.などの表現を使って自分の町について言ったり、聞いたりしている。<行動観察></p> <p>・見本となる交流 (clear voice, eye contact, smile, good, gesture) をしているペアの姿を伝える。 ・ほしい理由について話をしている児童を紹介する。</p>	<p>・活動のデモンストレーションを見せる。</p> <p>子どもたちの活動の様子を見て、必要に応じて文字 (What do you want?) による支援を行う。</p> <p>・困っている子どもがいたら、助言する。 ・子どもたちとともに交流する。(英語ボランティア)</p> <p>・子どもたちとともに交流する。(英語ボランティア) ・困っている子がいたら助言する。 ・必要に応じて、再度デモンストレーションを見せる。</p>
<p>“I like～.” “I play～.” など理由も伝え合うことで、お互いの考えを理解し、自分の考えをよりはっきりさせることにつながることを見せる。</p>	<p>ALT: What do you want in Kameyama? HRT: I want a big stadium. ALT: You want a stadium. Why? HRT: (Because) I like baseball. I like soccer, too. ALT: That's good.</p>	
<p>10 Activity②</p> <p>・亀山にあってほしい施設について伝え合う。</p> <p>What do you want? - I want a zoo. - I like animals. Oh, you want a zoo! Nice!</p>	<p>・ほしい施設について、理由とともに伝えるようにする。 ・repeat や reaction, good, gesture を意識して活動に取り組ませる。 ・困っている子がいたら助言する。 ・机間指導して確認する。</p> <p>評 I want a/an～.などの表現を使って自分の町について言ったり、聞いたりしている。 <行動観察></p> <p>評 亀山の町にあってほし</p>	<p>・活動に参加して確認する。</p> <p>Activity②では、理由や repeat, reaction を入れて行うことで活動のステップアップにつなげる。</p>

<p>活動後に児童の意欲を図る手立ての一つとして、友だちや先生にいくつか質問できたか確認する。 上記以外に、児童の意欲や達成感につなげるため、本時の目標の内容に関わる振り返りを設定するとよい。 【例】活動後、亀山市にほしい施設として、どんな施設があったか尋ね、その人数を確認し、クラスで一番ほしい施設を決定するなど。</p>	<p>い施設などについて友だちや先生に進んで伝えようとしていたか。 <行動観察・振り返りカード点検></p> <ul style="list-style-type: none"> • どれくらいやり取りできたか尋ねる。 • ALT の問いかけにあわせて手を挙げさせる。 	<p>How many? Ten? Twelve?</p>
<p>• 例文を参考に、自分が亀山にほしい施設をワークシートに書く。 I want a _____ in Kameyama.</p>	<p>• ワークシートを配付する。</p>	
<p>1 2 Looking back</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本時の活動について振り返る。 • 振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 	<p>• 振り返りカードを配る。</p>	
<p>1 3 Greeting Stand up, please. Let's finish English class. Good bye. See you.</p>	<p>• 子どもと一緒に挨拶を行う。</p>	<p>• 子どもと一緒に挨拶を行う。</p>

自分がほしい施設について1文書く。本時を含め、単元を通じて書きためたものをポスターづくりへつなげる。

(3) 板書計画

<p>Today's Goal</p>	<p>Greeting</p>
<p>亀山の町にあってほしい施設などについて友だちや先生に伝えよう。</p>	<p>Warming up</p>
<p>We have ~.</p>	<p>Practice</p>
<p>We don't have ~.</p>	<p>Practice</p>
<p>I want a ~.</p>	<p>Sharing time</p>
<p>[] []</p>	<p>Activity ①</p>
<p>[] []</p>	<p>Sharing time</p>
<p>[]</p>	<p>Activity ②</p>
<p>[]</p>	<p>Looking back</p>
<p>A: What do you want in Kameyama? B: I want a _____ in Kameyama.</p>	<p>Greeting</p>

I like my town. Name _____

☆友だちにインタビューしよう☆

Name	亀山にほしいもの
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	

I want a zoo in Kameyama.

○あなたのほしいものを書きましょう。

第6学年 外国語活動 学習指導案

亀山市立井田川小学校

1. 単元名 Unit4 I like my town. (We Can! 2 文部科学省)

8. 本時について

(1) 本時の目標

亀山の町にあってほしい施設などについて友だちや先生に伝えようとする。

(2) 本時の指導過程(45分)

児童の学習活動	指導者の活動と留意点・評価の観点<方法>	
	HRT	ALT
<p>1 Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> • 始めのあいさつをする。 <p>Stand up, please. Let's start English. Sit down, please.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもと一緒に挨拶を行う。 • 率先して元気よく挨拶して楽しい雰囲気を作る。 • 本時の予定を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもと一緒に挨拶を行う。
<p>2 Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> • あいさつや質問に答える。 <p>ALTの提示するカードを見ながら月、曜日の単語の練習を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ALT の問いかけに子どもと一緒に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童の様子を見ながら、あいさつと日時・天候の確認を行う。 • フラッシュカードを用いて、テンポよく行う。
<p>ALT: Good morning. How are you? S : I'm fine/happy/hungry. ALT: What day is it today? S : It's Monday. ALT: What's the date today? S : It's July 9th. ALT: How is the weather today? S : It's cloudy.</p>		
<p>3 Practice</p> <ul style="list-style-type: none"> • 建物・施設などの単語を発音する。 <p>station, convenience store, aquarium, stadium など</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 前の時間までの単語を復習することを伝える。 • ALT の問いかけに子どもと一緒に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> • テンポよくフラッシュカードを使って、既習単語を復習する。 • 1回目は単語を練習し、2回目は I have/ I don't have の表現を使って練習させる。
<p>4 Small Talk</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 教師と子ども間でやり取りを行いながら、本時のめあてにつなげる。 • ALT や英語ボランティアに質問した後に子どもにも質問する。 	

<p>7 Practice</p> <ul style="list-style-type: none"> • I want a/an～ の表現について、ALT の後について練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • ALT、児童と一緒に練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童がほしいと予想される施設 (station, convenience store, aquarium, stadium など) を用いて、“I want a/an～” の表現を使って練習させる。 <p>I want a park. I want a station. I want a book store.</p>
<p>8 Activity①</p> <ul style="list-style-type: none"> • 亀山にあってほしい施設について伝え合う。 <p>What do you want in Kameyama? -I want a stadium.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 活動のデモンストレーションを見せる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>HRT: What do you want in Kameyama ? ALT: I want a zoo. HRT: Oh, nice! Why? Why do you want it? ALT: I like animals.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 活動のデモンストレーションを見せる。
<p>9 Sharing time</p> <ul style="list-style-type: none"> • 活動の様子を全体で交流する。 <p>10 Activity②</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 困っている子どもがいたら、助言する。 • できれば、ほしい理由も伝えるよう支援する。 <p>評 I want a/an～.などの表現を使って自分の町について言ったり、聞いたりしている。<行動観察></p> <ul style="list-style-type: none"> • 見本となる交流 (clear voice, eye contact, smile, good, gesture) をしているペアの姿を伝える。 • ほしい理由について話をしている児童を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 困っている子どもがいたら、助言する。 • 子どもたちとともに交流する。(英語ボランティア) • 子どもたちとともに交流する。(英語ボランティア) • 困っている子がいたら助言する。 • 必要に応じて、再度デモンストレーションを見せる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ALT: What do you want in Kameyama? HRT: I want a big stadium. ALT: You want a stadium. Why? HRT: (Because) I like baseball. I like soccer, too. ALT: That's good.</p> </div>

1. 単元名 Unit7 My Best Memory (We Can ! 2 文部科学省)

2. 単元の目標

- ・ 6年生の思い出の学校行事について伝え合おうとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ 学校行事や6年生の思い出について伝え合う表現に慣れ親しむ。
【外国語への慣れ親しみ】
- ・ 世界の国々の学校行事について自分たちの学校との相違点に気づく。
【言語や文化に対する気づき】

3. 言語材料

- ・ What's your best memory? My best memory is (the school trip).
- ・ We went to (Kyoto). ・ We enjoyed (shopping). ・ It was (exciting).
- ・ 行事 (sports day , music festival , volunteer day , drama festival , school trip , field trip, book festival , mochi making festival)

4. 中学校外国語科との関連

1年 NEW HORIZON Unit11 part3

5. 単元について

この単元は、小学校生活最後の学期となり、今までの学校生活での思い出を振り返ることができる題材である。また、既習表現である、I enjoyed ~. や It was~. などを用いながら自分の思い出を表現することができ、子どもたちは今までの学習のつながりも感じることができる。

6. 指導について

外国語活動は、基本 HRT、JTE（中学校英語教諭）、ALT の3人で指導している。また、学級には外国につながる児童が約4割在籍している。英語に親しみのあるフィリピンにつながる児童が英語リーダーとして活躍する等、英語に親しむ雰囲気づくりを大切に取組を進めている。

第1時では、Let's Watch and Think (p51)の映像を見て、分かったことをペアで話し合ったことをもとに学校行事について簡単な語句について学ばせたい。また、JTE、ALTの言う学校行事の表現を聞いて、キーワードゲームを行い、学校行事の言い方について慣れ親しむ。

第2時では、Let's Chant (p51)を使って、リズムに合わせて歌うことで、学校行事やI enjoyed ~ing.という表現に慣れ親しませる。次に、Let's Listen (p52)では、話の意味を理解しながら基本的な表現を聞くことで、学校行事についての表現に慣れ親しませる。たくさん聞いたり、言ったりする活動の後、「自分にとっての一番の思い出は何か？」を考えさせた上で、Unit7-1のワークシートにワードボックスから言葉を選んで書き写す活動を行わせる。

第3時では、Let's Listen3(p54)で登場人物の話の話を聞き、気持ちを表す言い方を想起させたい。次に、Let's Watch and Think 2,3,4(p55)の映像を見て、分かったことをグループで話し合わせることで、カナダやフランス、アメリカの学校行事について共有させる。その後、Unit7-2,3のワークシートにワードボックスから言葉を選んで書き写す活動を行う。

第4時では、書きためたワークシートの文を参考に、自分の思い出として伝えたい内容を考え、発表に向けての練習の時間とする。練習する中で、より伝わりやすくするためにどういう表現を使えばよいのかを考えさせたい。発表には、ポスターを活用させる。ポスターは、図画工作で、思い出をポスターに表現する時間を設定、作成し、そのポスターを活用したい。ポスター作成の際は、聞く人が理解しやすいようなレイアウトを考えさせる。

第5時、第6時（本時）では、ポスターを掲示しながら、自分の思い出のスピーチをする。その際、スピーチのポイント（ジェスチャー、クリアボイス、アイコンタクト）を明確にすることで、一人ひとりが目標をもって活動に取り組めるようにしたい。また、中間報告（あるいは交流）の時間を設定し、「分からない」「困った」ことから学びを深める。発表だけでなく、やり取りする時間を設けることで、聞き合う視点を大切にし、お互いの思い出を共有し、残りの学校生活にいかしていきたい。

7. 単元計画（全6時間）

時	学習内容（目標＝◆）
1	<p>◆学校行事の言い方を知ろう</p> <p>【Story Telling】 桃太郎</p> <p>【Small Talk】「先生の冬休みの思い出」 HRT</p> <p>【Let's Watch and Think (p.51)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見て、分かったことをペアで話し合ったことをもとに学校行事について簡単な語句を学ぶ。 ・ポインティングゲームをして、学校行事の言い方に慣れる。
2	<p>◆My Best Memory について話す表現を学ぼう①</p> <p>【Story Telling】 桃太郎</p> <p>【Small Talk】「先生の冬休みの思い出」 JTE</p> <p>【Let's Chant(p51)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌いながら、学校行事や I enjoyed ~ing.の表現に慣れ親しむ。 <p>【Let's Listen1,2(p52)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を推測しながら聞き、写真やイラストに合う番号を書く。 <p>【Let's Read and Write】 ワークシート Unit7-2,3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞きながら読んだ（言った）あと、ワードボックスから選んで書き写す。
3	<p>◆My Best Memory について話す表現を学ぼう②</p> <p>【Story Telling】 桃太郎</p> <p>【Small Talk】「先生の冬休みの思い出」 ALT</p> <p>【Let's Listen3(p54)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物、写真、イラストを線をつなぎながら、気持ちを表す言い方を想起する。

	<p>【Let's Watch and Think 2,3,4(p55)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像を見てわかったことをグループで伝え合い、カナダやフランス、アメリカの学校行事について学級で共有する。 <p>【Let's Read and Write】 ワークシート Unit7-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞きながら読んだ（言った）あと、ワードボックスから選んで書き写す。
4	<p>◆自分の一番の思い出について、今まで写してきた英語を参考に書いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書きためたワークシートの文を参考に、自分の思い出として伝えたい内容を考える。 ・ポスターの活用方法や、ジェスチャーなどを用いてどのように発表するかなど、My Best Memory を聞く人に伝わりやすいようにするためにどうすればよいかを考え、練習する。
5	<p>◆友だちと My Best Memory を聞き合おう①</p> <p>【Story Telling】 桃太郎（授業前）</p> <p>【Small Talk】 「My Best Memory」 HRT,JTE,ALT</p> <p>【Presentation Time】</p> <p>グループに分かれて、友だちと My Best Memory を聞き合う。</p> <p>①Speech Time（1分）</p> <p>②Question Time（2分）</p> <p>※①と②を3回繰り返す。</p> <p>③Review Time（グループ）（2分）</p> <p>※聞くグループが移動して、①～③を繰り返す。</p> <p>④Review Time（全体）（3分）</p>
6 本 時	<p>友だちと My Best Memory を聞き合おう②</p> <p>【Story Telling】 桃太郎（授業前）</p> <p>【Small Talk】 「My Best Memory」 HRT,JTE,ALT（会話）</p> <p>【Presentation Time】</p> <p>グループに分かれて、友だちと My Best Memory を聴き合う。</p> <p>①Speech&Question Time（3分）</p> <p>②Sharing Time（随時）</p> <p>③Review Time（全体）（5分）</p>

※Story Telling…物語をとおして意味ある文脈で英語を教える指導法

(1)本時の目標

6年生で一番心に残っている思い出を、友だちに配慮しながら伝えようとする。

(2)本時の指導過程 (45分)

時間	児童の活動	指導者の活動と留意点		
		HRT(T1)	JTE(T2)	ALT(T3)
3分	1. Greeting ・英語リーダーによる挨拶をする。 (月、日、曜日、天気、気分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ・児童と一緒に挨拶をする </div>		
2分 (5)	2. Let's Chant (全体)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評 進んで英語であいさつをしているか。 </div>		
10分 (15)	3. Small Talk ・T1,T2,T3の会話を聴く。			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> いきなり児童に話させるのではなく、まず教師がそれぞれ、学校での自分の一番の思い出を話す。 </div>
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> T2: What's your best memory? T3: My best memory is sports day. I enjoyed tug of war. It was hard but it was fun. Hi, Mr. ○○(T1). What's your best memory? T1: My best memory is ~. : </div>
	・友だちの My Best Memory を伝え合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評 会話の内容を理解して聴いているか。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 教員同士のスモールトークを聞いた後、内容について理解できたか児童ともやり取りを行う。 </div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友だちと My Best Memory を伝え合おう！ </div>		
1分 (16)	4. めあてを確認する 5. スピーチをする時のポイントを理解し、6グループに分かれる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ T2 が話した活動の流れを確認する。 ・ スピーチをする時のポイントをおさえる。 ・ 6グループに分かれるよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れを英語で話す。 ・ Gesture, Clear voice, Eye contact を確認する。 	
24分	6. Presentation Time			

- ・本時までには習った表現及びポスターを使ってスピーチを行う。
- ・質問が出にくい場合は、指導者がヒントとなるような質問を試みる。

<p>(40)</p>	<p>①Speech& Question Time (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ My Best Memory を発表する。 ・ 友だちのスピーチを聴く。 ・ その場で聞きたくなかったことを質問する。 <p>② Sharing Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気づいたことをグループで話し合う。 <p>発表者を替えて①、②を2～3回行う。</p>	<p>私たちのスピーチにしっかり聴き、質問をしたり、感想を言ったりしているか観察する。</p> <p>聴く側はスピーチの内容をつかんでいるか。</p> <p>発表者は、自分の伝えているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を流し、時間を把握する。 	
<p>5分 (45)</p>	<p>7. 振り返り (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動の振り返りを一人ひとりが考える。 <p>8. Closing</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする。 	<p>一度全体を集め、困ったことや言いたかったけれど言えなかった質問等がないか確認をする。</p> <p>言えなかった質問等に対し、どのように言えばいいか児童からも引き出すようにする。</p> <p>良い気づきがあったところは全体で共有する。</p>		<p>1回目の共有後、どのように質問の仕方が変わったか全体でも共有をし、個人でも振り返りを考える。</p>
<p>・ 児童と一緒に挨拶をする</p>				



第6学年 外国語活動 学習指導案

津市立敬和小学校

1. 単元名 Unit7 My Best Memory (We Can ! 2 文部科学省)

8. 本時について

(1)本時の目標

6年生で一番心に残っている思い出を、友だちに配慮しながら伝えようとする。

(2)本時の指導過程 (45分)

時間	児童の活動	指導者の活動と留意点		
		HRT(T1)	JTE(T2)	ALT(T3)
3分	1. Greeting ・英語リーダーによる挨拶をする。 (月、日、曜日、天気、気分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ・児童と一緒に挨拶をする </div>		
2分 (5)	2. Let's Chant (全体)	評進んで英語であいさつをしているか。 評しっかりと発音しているか。		
10分 (15)	3. Small Talk ・T1,T2,T3の会話を聴く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> T2: What's your best memory? T3: My best memory is sports day. I enjoyed tug of war. It was hard but it was fun. Hi, Mr. ○○(T1). What's your best memory? T1: My best memory is ~. : </div>		
	・友だちの My Best Memory を伝え合う。	評会話の内容を理解して聴いているか。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 友だちと My Best Memory を伝え合おう！ </div>			
1分 (16)	4. めあてを確認する	・T2 が話した活動の流れを確認する。	・活動の流れを英語で話す。	

	<p>5. スピーチをする時のポイントを理解し、6グループに分かれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチをする時のポイントをおさえる。 ・6グループに分かれるよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Gesture, Clear voice, Eye contactを確認する。 	
<p>24分 (40)</p>	<p>6. Presentation Time</p> <p>①Speech& Question Time (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ My Best Memory を発表する。 ・ 友だちのスピーチを聴く。 ・ その場で聞きたくなったことを質問する。 <p>② Sharing Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気づいたことをグループで話し合う。 <p>発表者を替えて①、②を2～3回行う。</p>	<p>評 友だちのスピーチにしっかり聴き、質問をしたり、感想を言ったりしているか観察する。</p> <p>評 聴く側はスピーチの内容をつかんでいるか。</p> <p>評 発表者は、自分の伝え方について振り返っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良かったことや学んだことをペアで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を流し、時間を把握する。 	<p>・ 英語で質問することや、答えることについてアドバイスをする。</p> <p>・ グループに入り、どのような話し合いをしているか把握する。</p>
<p>5分 (45)</p>	<p>7. 振り返り (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動の振り返りを一人ひとりが考える。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動について、感想を伝える。
	<p>8. Closing</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする。 	<p>・ 児童と一緒に挨拶をする</p>		

外国語活動年間計画 中学年(H30年度 赤羽小学校)

月	日	曜	LT	学習内容
4	12	木	2-6, 1-6, 1-1, 2-1	Alphabet
	19	木	2-6, 1-6, 1-1, 2-1	Alphabet
	26	木	2-6, 1-6, 1-1, 1-2	Alphabet
5	10	木	2-6, 1-6, 1-1, 1-2	Alphabet
	17	木	2-6, 1-6, 1-1, 1-2	Alphabet
	24	木	2-6, 1-6, 1-1, 1-2	Alphabet
	31	木	2-6, 1-6, 1-1, 1-2	Alphabet
6	7	木		
	14	木	1-4	I like すきなものをつたえよう 色
	21	木	1-4	I like すきなものをつたえよう スポーツ
	28	木	1-4	I like すきなものをつたえよう 食べ物
7	5	木		
	12	木	2-3	I like すきな曜日は何かな
	19	木		
9	6	木	1-5	What do you like?
	13	木	1-3, 2-4	number How many? What time is it?
	20	木		
	27	木	1-3, 2-4	number How many? What time is it?
10	4	木	1-3, 2-4	number How many? What time is it?
	10	水	1-7, 2-7	shape This is for you. What do you want?
	18	木	1-7, 2-7	shape This is for you. What do you want?
	25	木	1-7, 2-7	shape This is for you. What do you want?
11	1	木	2-2	weather Let's play cards.
	8	木	2-2	weather Let's play cards.
	15	木	2-8	This is my favorite place.
	22	木	2-8	This is my favorite place.
	29	木	2-8	This is my favorite place.
12	4	水	2-8	This is my favorite place.
	13	木		(予備日)
	20	木		
1	10	木	1-8	What's this?
	17	木		
	24	木	1-8	What's this?
	31	木		
2	7	木	2-5	Do you have a pen?
	14	木	2-5	Do you have a pen?
	21	木	1-9	Who are you?
	28	木	1-9	Who are you?
3	7	木	2-9	This is my day.
	14	木	2-9	This is my day.

外国語活動年間計画 高学年(H30年度 赤羽小学校)

月	日	曜	WC!	Unit	HF	学習内容
4	11	水	1	1-1	1-1 2-2	Hello, everyone! 初めて会った人との挨拶、名前の綴りを言う 小文字
	18	水	1	1-2		Hello, everyone! 初めて会った人と挨拶をして出身国をたずねる
	25	水	2	1-1	2-5	Welcome to Japan. 相手の出身国をたずねる
5	2	水	2	1-2	2-5	Welcome to Japan. 相手の出身国をたずねる
	9	水	2	1-3	2-5	Welcome to Japan. 相手の出身国をたずねる
	16	水				
	23	水	1	2-1	2-2	When is your birthday? 相手の誕生日をたずねる 自分の誕生日を伝える
	30	水	1	2-2	2-2	When is your birthday? インタビューゲームで使う表現の練習
6	6	水	1	2-3	2-2	When is your birthday? 誕生日を聞き合うインタビューゲーム
	13	水				
	20	水	1	3-1	1-8	What do you have on Monday?
	27	水	1	3-2	1-8	What do you have on Monday?
7	4	水	1	3-3	1-8	What do you have on Monday?
	11	水	1	3-4	1-8	What do you have on Monday?
	18	水			1-3 1-9	Sandae パーティをしよう What would you like? / How many?
9	5	水	1	4-1		What time do you get up?
	12	水	1	4-2		What time do you get up?
	19	水	2	5-1		My summer vacation 過去形に慣れる
	26	水	2	5-2		My summer vacation 過去形を使って自分のことを話す
10	3	水	1	5-1		She can run fast. He can jump high. 三人称単数に慣れる
	10	水	1	5-2		She can run fast. He can jump high. 三人称単数を使う
	17	水	2	6-1		He is famous. She is great. 人物紹介
	24	水	2	6-2		He is famous. She is great. 人物紹介
	31	水	2	3-1		What do you want to watch. オリンピック・パラリンピック
11	7	水	2	3-2		What do you want to watch. オリンピック・パラリンピック
	14	水	1	6-1		I want to go to Italy. Canを使ったおすすめ表現を知る
	21	水	1	6-2		I want to go to Italy. おすすめの国を紹介する
	28	水	2	4-1		I like my town. まちにあるものの表現を知る
12	4	木	2	4-2		I like my town. 自分たちの地域の好きな季節を紹介しあう
	12	水	1	7-1		Where is the treasure?
	19	水	1	7-2		Where is the treasure?
1	16	水	1	8-1		What would you like?
	23	水	1	8-2		What would you like?
	30	水	1	9-1		Who is your hero?
2	6	水	1	9-2		Who is your hero?
	13	水	2	8-1		What do you want to be?
	20	水	2	8-2		What do you want to be?
	26	水	2	7-1		My Best Memory
3	6	水	2	7-2		My Best Memory
	13	水	2	9		Junior High School Life
	20	水				
	27	水				

6年生は、5年生の時にHF2を学習済み。また、HF1の表現(単語、文)も、4～5年生の間に学習済み。

5年生は、4年生の時にHF1に出てくる表現(単語、文)を学習済み。

上の表のHFの覧は、既習の学習内容。(1-1は、HF1のLesson1の意味)

津市立東橋中学校 外国語科 CAN-DOリスト(2018年度)

	聞くこと Listening	読むこと Reading	話すこと[やりとり] Speaking [Interaction]	話すこと[発表] Speaking [Presentation]	書くこと Writing
<p>ア はっきりと語られれば、内容的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>イ はっきりと語られれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。</p>	<p>Unit0</p> <p>Unit1</p> <p>Unit2</p> <p>Unit4</p> <p>Presentation1</p> <p>Daily Scene1</p> <p>Unit5</p> <p>Daily Scene2</p> <p>Listening Activity2</p> <p>Unit3</p> <p>Unit4</p> <p>Unit5</p> <p>Unit6</p> <p>Unit7</p> <p>Unit8</p> <p>Unit9</p> <p>Daily Scene1</p> <p>Daily Scene2</p> <p>Unit10</p> <p>Unit11</p> <p>Unit12</p> <p>Unit13</p> <p>Unit14</p> <p>Unit15</p> <p>Unit16</p> <p>Unit17</p> <p>Unit18</p> <p>Unit19</p> <p>Unit20</p> <p>Unit21</p> <p>Unit22</p>	<p>Daily Scene3</p> <p>Daily Scene4</p> <p>Unit0</p> <p>Unit1</p> <p>Unit2</p> <p>Daily Scene7</p> <p>Unit9</p> <p>Let's Read</p>	<p>Unit0</p> <p>Unit1</p> <p>Daily Scene2</p> <p>Unit7</p> <p>Unit9</p> <p>Unit10</p> <p>Unit11</p> <p>Daily Scene5</p> <p>Daily Scene6</p> <p>Unit12</p> <p>Unit13</p> <p>Unit14</p> <p>Unit15</p> <p>Daily Scene1</p> <p>Unit18</p> <p>Unit19</p> <p>Unit20</p> <p>Unit21</p>	<p>Unit0</p> <p>Presentation1</p> <p>Presentation2</p> <p>Presentation3</p> <p>Presentation4</p> <p>Presentation5</p> <p>Presentation6</p> <p>Presentation7</p> <p>Presentation8</p> <p>Presentation9</p> <p>Presentation10</p> <p>Presentation11</p> <p>Presentation12</p> <p>Presentation13</p> <p>Presentation14</p> <p>Presentation15</p> <p>Presentation16</p> <p>Presentation17</p> <p>Presentation18</p> <p>Presentation19</p> <p>Presentation20</p> <p>Presentation21</p> <p>Presentation22</p>	<p>Unit0</p> <p>Unit1</p> <p>Unit2</p> <p>Unit3</p> <p>Unit4</p> <p>Unit5</p> <p>Unit6</p> <p>Unit7</p> <p>Unit8</p> <p>Unit9</p> <p>Unit10</p> <p>Unit11</p> <p>Unit12</p> <p>Unit13</p> <p>Unit14</p> <p>Unit15</p> <p>Unit16</p> <p>Unit17</p> <p>Unit18</p> <p>Unit19</p> <p>Unit20</p> <p>Unit21</p> <p>Unit22</p>
	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即座で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常会話や対話の場面について、相手の意図や感情を読み取るようにする。</p> <p>ウ 日常生活や身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>エ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>オ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>カ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>キ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ク 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ケ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>コ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>カ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>キ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ク 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ケ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>コ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即座で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常会話や対話の場面について、相手の意図や感情を読み取るようにする。</p> <p>ウ 日常生活や身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>エ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>オ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>カ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>キ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ク 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ケ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>コ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即座で伝え合うことができるようにする。</p> <p>イ 日常会話や対話の場面について、相手の意図や感情を読み取るようにする。</p> <p>ウ 日常生活や身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>エ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>オ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>カ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>キ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ク 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ケ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>コ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p>	<p>ア アルフアベントの文字とそれが含まれる単語を覚えることができる。</p> <p>イ 日常会話や対話の場面について、相手の意図や感情を読み取るようにする。</p> <p>ウ 日常生活や身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>エ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>オ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>カ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>キ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ク 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ケ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>コ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p>	<p>ア アルフアベントの文字とそれが含まれる単語を覚えることができる。</p> <p>イ 日常会話や対話の場面について、相手の意図や感情を読み取るようにする。</p> <p>ウ 日常生活や身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>エ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>オ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>カ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>キ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ク 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>ケ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p> <p>コ 身近な出来事について、自分の考えや感情を伝えることができるようにする。</p>

1年生

聞くこと listening	読むこと Reading	話すこと[やりとり] Speaking [Interaction]	話すこと[発表] Speaking [Presentation]	書くこと Writing
<p>ア はっきりと話されれば、目的や意図を推察し、内容を理解することができるようにする。</p> <p>Unit0 主体的な思い出しについて、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Unit2 授業内や宿内放送を聞いて、必要な情報を取り出すことができる。</p> <p>Daily Scene2 相手から許可を求められれば、理由を説明することができる。</p> <p>Unit4 必要な情報を聞いて、必要な情報を取り出すことができる。</p> <p>Daily Scene4 電話の会話で、用件を理解することができる。</p> <p>Daily Scene5 行き先の案内で、教えられた行き方がわかる。</p> <p>Daily Scene7 買い物の場面で、買い手の意図がわかる。</p> <p>Unit0 着休みの思い出しについて、スピーチを聞いて、概要を理解することができる。</p> <p>Unit1 休職の思い出しについて、スピーチを聞いて、概要を理解することができる。</p> <p>Unit3 仕事先について、インタビューを聞いて、概要を理解することができる。</p> <p>Presentat ion1 将来の夢についての友だちの発表を聞いて、内容を聞き取ることができる。</p> <p>Presentat ion2 友だちの発表を聞いて、質問について理解することができる。</p> <p>Presentat ion3 好きなことについての友だちの発表を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。</p> <p>Unit5 ニューズを聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。</p> <p>Unit6 課題についての説明で、家庭や学校へのインタビューを聞き取ることができる。</p> <p>Unit7 映画の予告編を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。</p>	<p>ア 簡単な単語や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Unit3 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Daily Scene3 メールを送ることで、その内容を理解することができる。</p> <p>Presentat ion1 スピーチの原稿を読み、自分の考えを述べる。</p> <p>Unit4 ホームステイでの宿題とその内容を説明することができる。</p> <p>Daily Scene6 絵を説明することで、その内容を理解することができる。</p> <p>Presentat ion2 スピーチの原稿を読み、自分の考えを述べる。</p> <p>Presentat ion3 スピーチの原稿を読み、自分の考えを述べる。</p> <p>Unit1 インターネット上の掲示板で、友だちの好きなことについて、自分の考えを述べる。</p> <p>Unit2 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Let's Read1 日本形式の物語を読み、内容を理解することができる。</p> <p>Unit5 スピーチを読み、その内容を理解することができる。</p> <p>Unit6 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Let's Read2 物語を読み、その内容を理解することができる。</p> <p>Unit7 映画の予告編を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。</p> <p>Let's Read3 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文法事項を用いて説明することができるようにする。</p> <p>Unit1 情報を求めてインタビューすることができる。</p> <p>Unit2 入居希望の場面などで、自分の予定を伝えることができる。</p> <p>Daily Scene4 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Daily Scene5 乗り物の行き方を尋ねたり、案内を受けることができる。</p> <p>Daily Scene2 宿題や相手の感情について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Unit5 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p> <p>Daily Scene7 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p> <p>Unit5 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p>	<p>Let's Read1 関心のある事柄について、簡単な単語や文法事項を用いて説明することができるようにする。</p> <p>Let's Read2 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Unit0 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Unit2 入居希望の場面などで、自分の予定を伝えることができる。</p> <p>Unit3 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Presentat ion1 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p> <p>Unit4 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Presentat ion2 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p> <p>Presentat ion3 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p> <p>Unit7 ある商品について、資料などを用いて説明することができる。</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文法事項を用いて説明することができるようにする。</p> <p>Unit0 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Unit1 インタビューの概要や要点を聞き取ることができる。</p> <p>Daily Scene1 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Unit2 自身の旅行の予定を説明することができる。</p> <p>Unit3 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Daily Scene3 日常生活での出来事について、4文以上で書くことができる。</p> <p>Presentat ion1 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p> <p>Daily Scene6 読者の感情や文法事項について、簡単な文法事項を説明することができるようにする。</p> <p>Presentat ion2 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p> <p>Presentat ion3 自身の好きなことや得意なことを説明することができる。</p>
<p>ア はっきりと話されれば、社会的な目的や意図を推察し、内容を理解することができるようにする。</p>	<p>ア 社会的な目的や意図を推察し、内容を理解することができるようにする。</p>	<p>ア 社会的な目的や意図を推察し、内容を理解することができるようにする。</p>	<p>ア 社会的な目的や意図を推察し、内容を理解することができるようにする。</p>	<p>ア 社会的な目的や意図を推察し、内容を理解することができるようにする。</p>

津市立東橋内中学校 外国語科 CAN-DOリスト(2018年度)

聞くこと Listening	読むこと Reading	話すこと[やりとり] Speaking [Interaction]	話すこと[発表] Speaking [Presentation]	書くこと Writing
<p>ア はっきりと読まなければ、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようになる。</p> <p>Unit0 Daily Scene1</p> <p>Unit1 Daily Scene3</p> <p>Daily Scene5</p> <p>Unit2 Presentation1</p> <p>Unit3 Presentation2</p> <p>Unit4 Presentation3</p> <p>Unit5 Presentation4</p> <p>Unit6 Presentation5</p>	<p>ア 関心のある話題について、簡単な単語や文を理解することができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit0 Daily Scene1</p> <p>Unit1 Daily Scene3</p> <p>Unit2 Daily Scene5</p> <p>Unit3 Presentation1</p> <p>Unit4 Presentation2</p> <p>Unit5 Presentation3</p> <p>Unit6 Presentation4</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit0 Daily Scene1</p> <p>Unit1 Daily Scene3</p> <p>Unit2 Daily Scene5</p> <p>Unit3 Presentation1</p> <p>Unit4 Presentation2</p> <p>Unit5 Presentation3</p> <p>Unit6 Presentation4</p>	<p>ア 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit0 Daily Scene1</p> <p>Unit1 Daily Scene3</p> <p>Unit2 Daily Scene5</p> <p>Unit3 Presentation1</p> <p>Unit4 Presentation2</p> <p>Unit5 Presentation3</p> <p>Unit6 Presentation4</p>
<p>イ はっきりと読まれば、社会的な話題について、簡易な情報を聞き取ることができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>イ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>イ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>イ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>イ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>
<p>ウ はっきりと読まれば、社会的な話題について、簡易な情報を聞き取ることができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>ウ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>ウ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>ウ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>	<p>ウ 関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて、即興で話すことができるようになる。</p> <p>Unit1 Presentation1</p> <p>Unit2 Presentation2</p> <p>Unit3 Presentation3</p> <p>Unit4 Presentation4</p> <p>Unit5 Presentation5</p> <p>Unit6 Presentation6</p>